

2019 授業科目〈シラバス〉

Okinawa Prefectural University of Arts Syllabus

沖縄県立芸術大学
美術工芸学部

授業科目〈シラバス〉について

この「2019 授業科目〈シラバス〉」は、平成 31 年度に美術工芸学部で開講される専門教育科目について、各担当教員から提出された授業計画（シラバス）をまとめたものです。履修計画や年間の学習計画を立てる際に利用してください。

なお、総合教育科目、共通教育科目及び教職に関する科目は別冊となっています。

1. 実技の授業科目は、その多くが複数の実習（課題）で構成されています。この場合、授業科目の頁のあとに実習（課題）ごとのシラバスが記載されていることがあります。
2. 今年度開講する科目のみを掲載しています。
3. 集中講義科目については、単位数・学期欄に（集中）と表記されています。
4. 担当教員名欄の（名）は名誉教授を、（客）は客員教授を、（非）は非常勤講師を表します。
5. ■履修上の留意点には、履修の条件や注意事項のほかに、授業外の学習を含めて履修にあたり心掛けるべき点、学生への要望等が記載されています。
6. その他、本学の授業科目には科目名の末尾に番号等が付されているものがあります。これらは、科目開設の趣旨や性格、また分類上のルールがありますので、入学時に配布された履修案内等を確認してください。

平成31年度 美術工芸学部開設授業科目表一覧(平成30年度以降入学生用)

対象 専攻	科目 区分	科目 コード	授業科目名	単位数	受講 年次	学期	授業 区分	頁
絵 画	必修主要	21110	絵画基礎	5	1	前	実技	1
		21112	日本画Ⅰ	6	1	後	実技	7
		21113	箔	2	1	後	演習	12
		21213	日本画Ⅱ－Ⅰ	6	2	前	実技	13
		21214	日本画Ⅱ－Ⅱ	7	2	後	実技	15
		21121	油画Ⅰ	7	1	後	実技	21
		21223	油画Ⅱ－Ⅰ	6	2	前	実技	25
		21224	油画Ⅱ－Ⅱ	7	2	後	実技	29
		21231	絵画特論Ⅰ	2	1	通年	講義	42
		21331	絵画特論Ⅱ	2	2	通年	講義	43
		21291	古美術研究	4	2	後期	演習	44
	必修専攻 専門関連	21132	彫刻(絵)	2	1	前	演習	45
		21133	デザイン(絵)	2	1	前	演習	46
		21209	工芸(絵)	2	2	前	演習	47
彫 刻	必修主要	22110	デッサン	1	1	前	実技	48
		22113	彫刻Ⅰ－Ⅰ	5	1	前	実技	49
		22114	彫刻Ⅰ－Ⅱ	7	1	後	実技	53
		22213	彫刻Ⅱ－Ⅰ	6	2	前	実技	56
		22214	彫刻Ⅱ－Ⅱ	6	2	後	実技	59
		22215	構成	1	2	後	実技	62
		22231	彫刻特論Ⅰ	2	2	通年	講義	69
		22291	古美術研究	4	2	後	演習	71
	必修専攻 専門関連	22121	絵画(彫)	2	1	前	演習	72
		22209	デザイン(彫)	2	2	前	演習	73
		22132	美術解剖学Ⅰ(骨)	2	1～4	前	講義	75
	選択専攻 専門関連	22133	美術解剖学Ⅱ(筋)	2	1～4	前	講義	休講
芸 術 学	必修主要	23110	素描(芸)	2	1	前	演習	76
		23114	実技研究(絵画)	3	1	後	実技	78
		23115	実技研究(表現)	2	1	後	実技	81
		23113	基礎演習	2	1	後	演習	84
		23217	学外研究	4	2	後	演習	85
	必修専攻 専門関連	23151	絵画(芸)	2	1	前	演習	87
		23152	彫刻(芸)	2	1	前	演習	88
		23153	デザイン(芸)	2	1	前	演習	89
		23154	工芸(芸)	2	1	前	演習	90
	選択主要	23431	語学演習A(英語)	4	2～4	通年	演習	100
		23432	語学演習B(独語)	4	2～4	通年	演習	102
		23433	語学演習C(仏語)	4	2～4	通年	演習	103
		23434	語学演習D(伊語)	4	2～4	通年	演習	104
		23435	原典研究A(古文書)	4	2～4	通年	演習	105
		23436	原典研究B(漢文)	4	2～4	通年	演習	休講
		23437	原典研究C(ラテン語)	4	2～4	通年	演習	106
		23438	美学特講	2	2～4	前	講義	107
		23439	芸術学特講	2	2～4	後	講義	108
		23440	東洋美術史特講	2	2～4	前	講義	109
		23228	日本美術史特講	2	2～4	後	講義	110
		23441	西洋美術史特講	2	2～4	前	講義	111
		23227	比較芸術学特講	2	2～4	後	講義	112
	選択専攻 専門関連	23330	絵画演習A	2	2～3	前	演習	281
		23331	絵画演習B	2	2～3	後	演習	282
		23261	彫刻演習A	2	2～3	前	演習	284
		23262	彫刻演習B	2	2～3	後	演習	285
		23334	デザイン演習A	2	2～3	前	演習	287
		23335	デザイン演習B	2	2～3	後	演習	288
		23336	工芸演習A	2	2～3	前	演習	290
		23337	工芸演習B	2	2～3	後	演習	291

平成31年度 美術工芸学部開設授業科目表一覧(平成30年度以降入学生用)

対象 専攻	科目 区分	科目 コード	授業科目名	単位数	受講 年次	学期	授業 区分	頁
デザイン	必修主要	24112	デザインⅠ	3	1	前	実技	113
		24113	木工芸基礎	2	1	後	演習	116
		24114	立体造形(デ)	2	1	後	演習	117
		24115	素描(デ)	1	1	後	実技	118
		24116	色彩構成	2	1	後	演習	119
		24117	空間構成	2	1	後	演習	120
		24223	デザインⅡ－Ⅰ	7	2	前	実技	121
		24224	デザインⅡ－Ⅱ	7	2	後	実技	127
	必修専攻 専門関連	24121	絵画(デ)	2	1	前	演習	147
		24123	彫刻(デ)	2	1	前	演習	148
		24124	工芸(デ)	2	1	前	演習	149
	選択専攻 専門関連	24132	西洋建築史	2	1～4	前	講義	308
		24133	日本建築史	2	1～4	後	講義	309
		24153	クラフトデザイン計画	2	1～4	後	講義	310
		24161	プロダクトデザイン論	2	1～4	後	講義	311
		24162	ビジュアルデザイン論	2	1～4	前	講義	312
		24171	視覚伝達論A	2	1～4	前	演習	313
		24172	視覚伝達論B	2	1～4	後	演習	314
		24181	環境造形論	2	1～4	前	講義	315
		24184	人間工学	2	1～4	後	講義	327
		24251	図学	2	1～4	前	演習	316
工芸	必修主要	25112	描写	1	1	前	実技	150
		25113	色彩	1	1	前	実技	151
		25114	立体構成	1	1	前	実技	152
		25101	工芸Ⅰ	7	1	後	実技	153
		25209	工芸Ⅱ	5	2	前	実技	158
		25261	立体造形(工)	1	2	前	実技	164
		25262	版画	1	2	前	実技	165
		25221	染Ⅰ	7	2	後	実技	167
		25231	織Ⅰ	7	2	後	実技	185
		25232	繊維科学	2	2	後	講義	206
		25222	染色化学	2	2	後	講義	207
		25211	陶芸Ⅰ	7	2	後	実技	209
		25212	窯業化学	2	2	後	講義	226
		25241	漆芸Ⅰ	7	2	後	実技	228
		25242	漆芸科学	2	2	後	講義	249
	必修専攻 専門関連	25102	絵画(工)	2	1	前	演習	251
		25103	彫刻(工)	2	1	前	演習	252
		25104	デザイン(工)	2	1	前	演習	253
	選択専攻 専門関連	25131	陶磁史	2	1～4	前	講義	318
		25132	染織工芸史	2	1～4	前	講義	319
		25151	生活造形論	2	1～4	後	講義	320
		25152	装飾論	2	1～4	後	講義	321
		25171	漆芸論	2	1～4	後	講義	322
		25177	色彩論	2	1～4	前	講義	326

平成31年度 美術工芸学部開設授業科目表一覧(平成30年度以降入学生用)

対象 専攻	科目 区分	科目 コード	授業科目名	単位数	受講 年次	学期	授業 区分	頁
全専攻対象 (一部専攻除く科目あり)	選択共通 専門関連	22132	美術解剖学Ⅰ(骨)	2	1～4	前	講義	75
		22133	美術解剖学Ⅱ(筋)	2	1～4	前	講義	休講
		22202	金属演習	2	2～4	後	演習	292
		23125	芸術心理学	2	1～4	後	講義	293
		23126	芸術学	2	1～4	前	講義	294
		23135	彫刻史	2	1～4	前	講義	休講
		23136	デザイン史	2	1～4	前	講義	295
		23137	工芸史	2	1～4	前	講義	296
		23138	絵画史	2	1～4	後	講義	297
		23141	書道史	2	1～4	前	講義	298
		23142	現代芸術論A	2	1～4	後	講義	299
		23143	現代芸術論B	2	1～4	前	講義	300
		23145	一般芸術学	2	1～4	後	講義	301
		23146	日本美術史	2	1～4	前	講義	302
		23147	東洋美術史	2	1～4	前	講義	303
		23148	西洋美術史A	2	1～4	前	講義	304
		23149	西洋美術史B	2	1～4	後	講義	305
		24132	西洋建築史	2	1～4	前	講義	308
		24133	日本建築史	2	1～4	後	講義	309
		24153	クラフトデザイン計画	2	1～4	後	講義	310
		24161	プロダクトデザイン論	2	1～4	後	講義	311
		24162	ビジュアルデザイン論	2	1～4	前	講義	312
		24163	図法及び製図A	2	1～4	前	演習	330
		24164	図法及び製図B	2	1～4	後	演習	331
		24171	視覚伝達論A	2	1～4	前	演習	313
		24172	視覚伝達論B	2	1～4	後	演習	314
		24181	環境造形論	2	1～4	前	講義	315
		24184	人間工学	2	1～4	後	講義	327
		24251	図学	2	1～4	前	演習	316
		24252	CG基礎	2	2～4	後	演習	317
		25131	陶磁史	2	1～4	前	講義	318
		25132	染織工芸史	2	1～4	前	講義	319
		25151	生活造形論	2	1～4	後	講義	320
		25152	装飾論	2	1～4	後	講義	321
		25171	漆芸論	2	1～4	後	講義	322
		25177	色彩論	2	1～4	前	講義	326
自由科目		21202	写真演習	2	1～4	後	演習	335
		24202	スクリーン印刷演習	2	2～4	後	演習	336

平成 31 年度 美術工芸学部開設授業科目表一覧（平成 29 年度入学生用）

対象 専攻	科目 区分	科目 コード	授業科目名	単位数	受講 年次	学期	授業 区分	頁
絵 画	必修主要	21311	日本画Ⅲ	14	3	通年	実技	18
		21321	油画Ⅲ	14	3	通年	実技	32
		21331	絵画特論Ⅱ	2	2	通年	講義	43
		21291	古美術研究	4	2	後	演習	44
	選択専攻 専門関連	21431	西洋建築史概説A	2	1～4	前	講義	255
		21432	日本建築史概説A	2	1～4	後	講義	256
		21433	ビジュアルデザイン概論	2	1～4	前	講義	257
		21434	視覚伝達概論A	2	1～4	前	演習	258
		21435	視覚伝達概論B	2	1～4	後	演習	259
		21436	陶磁史概説A	2	1～4	前	講義	260
		21437	染織工芸史概説A	2	1～4	前	講義	261
		21438	生活造形概論A	2	1～4	後	講義	262
		21439	装飾概論A	2	1～4	後	講義	263
		21440	漆芸概論A	2	1～4	後	講義	264
彫 刻	必修主要	22112	彫刻ⅠB	7	1	後	実技	—
		22212	彫刻Ⅱ	13	2	通年	実技	—
		22312	彫刻Ⅲ	13	3	通年	実技	63
		22231	彫刻特論Ⅰ	2	2	通年	講義	69
		22331	彫刻特論Ⅱ	2	3	通年	講義	70
		22291	古美術研究	4	2	後	演習	71
	専攻専門 関連	22207	デザインB	2	2	前	演習	—
		22208	工芸B	2	3	前	演習	74
	選択専攻 専門関連	22132	美術解剖学Ⅰ（骨）	2	1～4	前	講義	75
		22133	美術解剖学Ⅱ（筋）	2	1～4	前	講義	休講
		22421	西洋建築史概説B	2	1～4	前	講義	265
		22422	日本建築史概説B	2	1～4	後	講義	266
		22423	クラフトデザイン計画概論	2	1～4	後	講義	267
		22424	プロダクトデザイン概論	2	1～4	後	講義	268
		22425	環境造形概論	2	1～4	前	講義	269
		22426	陶磁史概説B	2	1～4	前	講義	270
		22427	染織工芸史概説B	2	1～4	前	講義	271
		22428	生活造形概論B	2	1～4	後	講義	272
		22429	装飾概論B	2	1～4	後	講義	273
		22430	漆芸概論B	2	1～4	後	講義	274
芸 術 学	必修主要	23112	実技研究	5	1	後	実技	77
		23113	基礎演習	2	1	後	演習	84
		23217	学外研究	4	2	後	演習	85
	選択主要	23421	美学演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	91
		23422	美学演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	91
		23423	芸術学演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	92
		23424	芸術学演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	93
		23425	日本美術史演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	94
		23426	日本美術史演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	95
		23427	東洋美術史演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	96
		23428	東洋美術史演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	96
		23429	西洋美術史演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	97
		23430	西洋美術史演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	97
		23442	芸術文化論演習	4	3～4	通年	演習	98
		23431	語学演習A（英語）	4	2～4	通年	演習	100
		23432	語学演習B（独語）	4	2～4	通年	演習	102
		23433	語学演習C（仏語）	4	2～4	通年	演習	103
		23434	語学演習D（伊語）	4	2～4	通年	演習	104
		23435	原典研究A（古文書）	4	2～4	通年	演習	105
		23436	原典研究B（漢文）	4	2～4	通年	演習	休講
		23437	原典研究C（ラテン語）	4	2～4	通年	演習	106
		23438	美学特講	2	2～4	前	講義	107
		23439	芸術学特講	2	2～4	後	講義	108

平成 31 年度 美術工芸学部開設授業科目表一覧（平成 29 年度入学生用）

対象 専攻	科目 区分	科目 コード	授業科目名	単位数	受講 年次	学期	授業 区分	頁
芸術学	選択主要	23440	東洋美術史特講	2	2～4	前	講義	109
		23228	日本美術史特講	2	2～4	後	講義	110
		23441	西洋美術史特講	2	2～4	後	講義	111
		23227	比較芸術学特講	2	2～4	後	講義	112
	選択専攻 専門関連	23125	芸術心理学	2	1～4	後	講義	293
		23126	芸術学	2	1～4	前	講義	294
		23135	彫刻史	2	1～4	前	講義	休講
		23136	デザイン史	2	1～4	前	講義	295
		23137	工芸史	2	1～4	前	講義	296
		23138	絵画史	2	1～4	後	講義	297
		23141	書道史	2	1～4	前	講義	298
		23142	現代芸術論 A	2	1～4	後	講義	299
		23143	現代芸術論 B	2	1～4	前	講義	300
		23145	一般芸術学	2	1～4	後	講義	301
		23146	日本美術史	2	1～4	前	講義	302
		23147	東洋美術史	2	1～4	前	講義	303
		23148	西洋美術史 A	2	1～4	前	講義	304
		23149	西洋美術史 B	2	1～4	後	講義	305
		23320	絵画演習	4	2～3	通年	演習	274
		23321	彫刻演習	4	2～3	通年	演習	277
		23322	デザイン演習	4	2～3	通年	演習	286
		23323	工芸演習	4	2～3	通年	演習	289
		23443	陶磁史概説 C	2	1～4	前	講義	275
		23444	染織工芸史概説 C	2	1～4	前	講義	276
		23445	生活造形概論 C	2	1～4	後	講義	277
		23446	装飾概論 C	2	1～4	後	講義	278
		23447	漆芸概論 C	2	1～4	後	講義	279
デザイン	必修主要	24341	デザインⅢ A	7	3	前	実技	133
		24342	デザインⅢ B	7	3	後	実技	139
		24331	デザイン特別演習	2	3	後	演習	145
		24391	学外研究	4	3	後	演習	146
	選択専攻 専門関連	24132	西洋建築史	2	1～4	前	講義	308
		24133	日本建築史	2	1～4	後	講義	309
		24153	クラフトデザイン計画	2	1～4	後	講義	310
		24161	プロダクトデザイン論	2	1～4	後	講義	311
		24162	ビジュアルデザイン論	2	1～4	前	講義	312
		24171	視覚伝達論 A	2	1～4	前	演習	313
		24172	視覚伝達論 B	2	1～4	後	演習	314
		24181	環境造形論	2	1～4	前	講義	325
		24182	色彩論	2	1～4	前	講義	326
		24184	人間工学	2	1～4	後	講義	327
		24251	図学	2	1～4	前	演習	316
		24252	C G 基礎	2	2～4	後	演習	317
	選択共通 専門関連	25131	陶磁史	2	1～4	前	講義	318
		25132	染織工芸史	2	1～4	前	講義	319
		25151	生活造形論	2	1～4	後	講義	320
		25152	装飾論	2	1～4	後	講義	321
		25171	漆芸論	2	1～4	後	講義	322

平成 31 年度 美術工芸学部開設授業科目表一覧（平成 29 年度入学生用）

対象 専攻	科目 区分	科目 コード	授業科目名	単位数	受講 年次	学期	授業 区分	頁
工 芸	必修主要	25321	染Ⅱ	14	3	通年	実技	173
		25331	織Ⅱ	14	3	通年	実技	190
		25322	染織特別演習	2	3	後	演習	208
		25311	陶芸Ⅱ	14	3	通年	実技	214
		25312	陶芸特別演習	2	3	通年	演習	227
		25341	漆芸Ⅱ	14	3	通年	実技	235
		25342	漆芸特別演習	2	3	前	演習	250
	選択専攻 専門関連	25131	陶磁史	2	1～4	前	講義	318
		25132	染織工芸史	2	1～4	前	講義	319
		25151	生活造形論	2	1～4	後	講義	320
		25152	装飾論	2	1～4	後	講義	321
		25162	図法及び製図	4	1～4	通年	演習	328
		25171	漆芸論	2	1～4	後	講義	322
		25172	絵画史概説	2	1～4	後	講義	323
		25173	彫刻史概説	2	1～4	前	講義	休講
		25174	現代芸術概論A	2	1～4	後	講義	324
		25175	現代芸術概論B	2	1～4	前	講義	325
		25176	沖縄美術工芸史概説	2	1～2	後	講義	休講
	全専攻対象（一部専攻除く科目あり）	22132	美術解剖学Ⅰ（骨）	2	1～4	前	講義	75
		22133	美術解剖学Ⅱ（筋）	2	1～4	前	講義	休講
		22202	金属演習	2	2～4	後	演習	292
		23125	芸術心理学	2	1～4	後	講義	293
		23126	芸術学	2	1～4	前	講義	294
		23135	彫刻史	2	1～4	前	講義	休講
		23136	デザイン史	2	1～4	前	講義	295
		23137	工芸史	2	1～4	前	講義	296
		23138	絵画史	2	1～4	後	講義	297
		23141	書道史	2	1～4	前	講義	298
		23142	現代芸術論A	2	1～4	後	講義	299
		23143	現代芸術論B	2	1～4	前	講義	300
		23145	一般芸術学	2	1～4	前	講義	301
		23146	日本美術史	2	1～4	前	講義	302
		23147	東洋美術史	2	1～4	後	講義	303
		23148	西洋美術史A	2	1～4	前	講義	304
		23149	西洋美術史B	2	1～4	後	講義	305
		24132	西洋建築史	2	1～4	後	講義	308
		24133	日本建築史	2	1～4	後	講義	309
		24153	クラフトデザイン計画	2	1～4	前	講義	310
		24161	プロダクトデザイン論	2	1～4	前	演習	311
		24162	ビジュアルデザイン論	2	1～4	後	演習	312
		24171	視覚伝達論A	2	1～4	前	講義	313
		24172	視覚伝達論B	2	1～4	前	講義	314
		24181	環境造形論	2	1～4	後	講義	315
		24182	色彩論	2	1～4	前	演習	326
		24184	人間工学	2	2～4	後	演習	327
		24251	図学	4	1～4	通年	演習	316
		24252	CG基礎	2	1～4	後	演習	317
		25162	図法及び製図	2	2～4	後	演習	328
自由科目		21202	写真演習	2	1～4	後	演習	335
		24202	スクリーン印刷演習	2	2～4	後	演習	336

平成 31 年度 美術工芸学部開設授業科目表一覧（平成 28 年度入学生用）

対象 専攻	科目 区分	科目 コード	授業科目名	単位数	受講 年次	学期	授業 区分	頁
絵 画	必修主要	21311	日本画Ⅲ	14	3	通年	実技	18
		21411	日本画Ⅳ	15	4	通年	実技	20
		21321	油画Ⅲ	14	3	通年	実技	32
		21421	油画Ⅳ	15	4	通年	実技	39
	選択専攻 専門関連	21431	西洋建築史概説 A	2	1～4	前	講義	256
		21432	日本建築史概説 A	2	1～4	後	講義	256
		21433	ビジュアルデザイン概論	2	1～4	前	講義	257
		21434	視覚伝達概論 A	2	1～4	前	演習	258
		21435	視覚伝達概論 B	2	1～4	後	演習	259
		21436	陶磁史概説 A	2	1～4	前(集中)	講義	260
		21437	染織工芸史概説 A	2	1～4	前	講義	261
		21438	生活造形概論 A	2	1～4	後	講義	262
		21439	装飾概論 A	2	1～4	後(集中)	講義	263
		21440	漆芸概論 A	2	1～4	後	講義	264
彫 刻	必修主要	22311	彫刻Ⅲ	14	3	通年	実技	63
		22411	彫刻Ⅳ	15	4	通年	実技	68
		22331	彫刻特論Ⅱ	2	3	通年	講義	70
	選択専攻 専門関連	22132	美術解剖学Ⅰ(骨)	2	1～4	前	講義	75
		22133	美術解剖学Ⅱ(筋)	2	1～4	前	講義	休講
		22421	西洋建築史概説 B	2	1～4	前	講義	265
		22422	日本建築史概説 B	2	1～4	後	講義	266
		22423	クラフトデザイン計画概論	2	1～4	後(集中)	講義	267
		22424	プロダクトデザイン概論	2	1～4	後	講義	268
		22425	環境造形概論	2	1～4	前	講義	269
		22426	陶磁史概説 B	2	1～4	前(集中)	講義	270
		22427	染織工芸史概説 B	2	1～4	前	講義	271
		22428	生活造形概論 B	2	1～4	後	講義	272
		22429	装飾概論 B	2	1～4	後(集中)	講義	273
		22430	漆芸概論 B	2	1～4	後	講義	274
芸 術 学	必修主要	23411	卒業論文	5	4	通年	演習	86
	選択主要	23421	美学演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	91
		23422	美学演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	91
		23423	芸術学演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	92
		23424	芸術学演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	93
		23425	日本美術史演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	94
		23426	日本美術史演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	95
		23427	東洋美術史演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	96
		23428	東洋美術史演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	96
		23429	西洋美術史演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	97
		23430	西洋美術史演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	97
		23442	芸術文化論演習	4	3～4	通年	演習	98
		23431	語学演習 A (英語)	4	2～4	通年	演習	100
		23432	語学演習 B (独語)	4	2～4	通年	演習	102
		23433	語学演習 C (仏語)	4	2～4	通年	演習	103
		23434	語学演習 D (伊語)	4	2～4	通年	演習	104
		23435	原典研究 A (古文書)	4	2～4	通年	演習	105
		23436	原典研究 B (漢文)	4	2～4	通年	演習	休講
		23437	原典研究 C (ラテン語)	4	2～4	通年	演習	106
		23438	美学特講	2	2～4	通年	講義	107
		23439	芸術学特講	2	2～4	通年	講義	108
		23440	東洋美術史特講	2	2～4	通年	講義	109
		23228	日本美術史特講	2	2～4	通年	講義	110
		23441	西洋美術史特講	2	2～4	通年	講義	111
		23227	比較芸術学特講	2	2～4	通年	講義	112
	選択専攻 専門関連	23125	芸術心理学	2	1～4	後	講義	293
		23126	芸術学	2	1～4	前	講義	294
		23135	彫刻史	2	1～4	前	講義	休講
		23136	デザイン史	2	1～4	前	講義	295
		23137	工芸史	2	1～4	前	講義	296
		23138	絵画史	2	1～4	後	講義	297

平成 31 年度 美術工芸学部開設授業科目表一覧 (平成 28 年度入学生用)

対象 専攻	科目 区分	科目 コード	授業科目名	単位数	受講 年次	学期	授業 区分	頁
芸術学	選択専攻 専門関連	23141	書道史	2	1～4	前	講義	298
		23142	現代芸術論 A	2	1～4	後	講義	299
		23143	現代芸術論 B	2	1～4	前	講義	300
		23145	一般芸術学	2	1～4	後	講義	301
		23146	日本美術史	2	1～4	前	講義	302
		23147	東洋美術史	2	1～4	前	講義	303
		23148	西洋美術史 A	2	1～4	前	講義	304
		23149	西洋美術史 B	2	1～4	後	講義	305
		23320	絵画演習	4	2～3	通年	演習	274
		23321	彫刻演習	4	2～3	通年	演習	283
		23322	デザイン演習	4	2～3	通年	演習	286
		23323	工芸演習	4	2～3	通年	演習	289
		23443	陶磁史概説 C	2	1～4	前	講義	275
		23444	染織工芸史概説 C	2	1～4	前	講義	276
		23445	生活造形概説 C	2	1～4	後	講義	277
		23446	装飾概説 C	2	1～4	後(集中)	講義	278
		23447	漆芸概説 C	2	1～4	後	講義	279
		23442	芸術文化論演習	4	3～4	通年	演習	98
デザイン	必修主要	24341	デザインⅢ A	7	3	前	実技	133
		24342	デザインⅢ B	7	3	後	実技	139
		24431	デザインⅣ	15	4	通年	実技	144
		24331	デザイン特別演習	2	3	後	演習	145
		24391	学外研究	4	3	後	演習	146
	選択専攻 専門関連	24131	建築史	4	1～4	通年	講義	306
		24153	クラフトデザイン計画	2	1～4	後	講義	310
		24161	プロダクトデザイン論	2	1～4	後	講義	311
		24162	ビジュアルデザイン論	2	1～4	前	講義	312
		24171	視覚伝達論 A	2	1～4	前	演習	313
		24172	視覚伝達論 B	2	1～4	後	演習	314
		24181	環境造形論	2	1～4	前	講義	315
		24182	色彩論	2	1～4	前	講義	326
		24184	人間工学	2	1～4	後	講義	327
		24251	図学	2	1～4	前	演習	316
		24252	C G 基礎	2	2～4	後	演習	317
	選択共通 専門関連	25131	陶磁史	2	1～4	前	講義	318
		25132	染織工芸史	2	1～4	前	講義	319
		25151	生活造形論	2	1～4	後	講義	320
		25152	装飾論	2	1～4	後	講義	321
		25171	漆芸論	2	1～4	後	講義	322
工芸	必修主要	25433	染Ⅲ	15	4	通年	実技	182
		25331	織Ⅱ	14	3	通年	実技	190
		25434	織Ⅲ	15	4	通年	実技	202
		25222	染色化学	2	2	後	講義	207
		25322	染織特別演習	2	3	前	演習	208
		25411	陶芸Ⅲ	15	4	通年	実技	223
		25341	漆芸Ⅱ	14	3	通年	実技	235
		25442	漆芸Ⅲ	15	4	通年	実技	246
		25242	漆芸科学	2	2	後	講義	249
		25342	漆芸特別演習	2	3	前	演習	250
		25391	古美術研究	4	3	後	演習	166
	選択専攻 専門関連	25131	陶磁史	2	1～4	前	講義	318
		25132	染織工芸史	2	1～4	前	講義	319
		25151	生活造形論	2	1～4	後	講義	320
		25152	装飾論	2	1～4	後	講義	321
		25162	図法及び製図	4	1～4	通年	演習	328
		25171	漆芸論	2	1～4	後	講義	322
		25172	絵画史概説	2	1～4	通年	講義	323
		25173	彫刻史概説	2	1～4	前	講義	休講
		25174	現代芸術概説 A	2	1～4	後	講義	324
		25175	現代芸術概説 B	2	1～4	前	講義	325

平成 31 年度 美術工芸学部開設授業科目表一覧（平成 28 年度入学生用）

対象 専攻	科目 区分	科目 コード	授業科目名	単位数	受講 年次	学期	授業 区分	頁
全専攻対象（一部専攻除く科目あり）	選択共通 専門関連	22132	美術解剖学Ⅰ（骨）	2	1～4	前	講義	75
		22133	美術解剖学Ⅱ（筋）	2	1～4	前	講義	休講
		22202	金属演習	2	2～4	後	演習	292
		23125	芸術心理学	2	1～4	後	講義	293
		23126	芸術学	2	1～4	前	講義	294
		23135	彫刻史	2	1～4	前	講義	休講
		23136	デザイン史	2	1～4	前	講義	295
		23137	工芸史	2	1～4	前	講義	296
		23138	絵画史	2	1～4	後	講義	297
		23141	書道史	2	1～4	前	講義	298
		23142	現代芸術論A	2	1～4	後	講義	299
		23143	現代芸術論B	2	1～4	前	講義	300
		23145	一般芸術学	2	1～4	後	講義	301
		23146	日本美術史	2	1～4	前	講義	302
		23147	東洋美術史	2	1～4	前	講義	303
		23148	西洋美術史A	2	1～4	前	講義	304
		23149	西洋美術史B	2	1～4	後	講義	305
		24131	建築史	4	1～4	通年	講義	306
		24153	クラフトデザイン計画	2	1～4	後	講義	310
		24161	プロダクトデザイン論	2	1～4	後	講義	311
		24162	ビジュアルデザイン論	2	1～4	前	講義	312
		24171	視覚伝達論A	2	1～4	前	演習	313
		24172	視覚伝達論B	2	1～4	後	演習	314
		24181	環境造形論	2	1～4	前	講義	315
		24182	色彩論	2	1～4	前	講義	326
		24184	人間工学	2	1～4	後	講義	327
		24251	図学	2	1～4	前	演習	316
		24252	CG基礎	2	2～4	後	演習	317
		25162	図法及び製図	4	1～4	通年	演習	328
自由科目	デザイン	24203	絵画C	3	2～4	通年	演習	334
		24204	彫刻C	4	2～4	前	演習	334
		24205	工芸D	4	2～4	通年	演習	334
		22203	絵画A	3	2～4	通年	演習	334
	彫刻	22204	デザインB	3	1～4	通年	演習	334
		22205	工芸B	4	2～4	通年	演習	334
		25203	絵画D	3	2～4	通年	演習	334
	工芸	25204	彫刻D	4	2～4	前	演習	334
		25205	デザインD	3	1～4	通年	演習	334
		23101	絵画B	3	2～4	通年	演習	334
	芸術学	23102	彫刻B	4	2～4	前	演習	334
		23103	デザインC	3	1～4	通年	演習	334
		23104	工芸C	4	2～4	通年	演習	334
		21203	彫刻A	4	2～4	前	演習	334
	絵画	21204	デザインA	3	1～4	通年	演習	334
		21205	工芸A	4	2～4	通年	演習	334
自由科目		21202	写真演習	2	1～4	後	演習	335
		24202	スクリーン印刷演習	2	2～4	後	演習	336

平成31年度 美術工芸学部開設授業科目表一覧(平成27年度以前入学生用)

対象 専攻	科目 区分	科目 コード	授業科目名	単位数	受講 年次	学期	授業 区分	頁
絵画	必修主要	21411	日本画Ⅳ	15	4	通年	実技	20
		21421	油画Ⅳ	15	4	通年	実技	39
彫刻	必修 主要	22311	彫刻Ⅲ	14	3	通年	実技	63
		22411	彫刻Ⅳ	15	4	通年	実技	68
芸術学	必修主要	23228	日本美術史特講	2	2～4	前	講義	111
		23411	卒業論文	5	4	通年	演習	86
		23421	美学演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	91
		23422	美学演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	91
		23424	芸術学演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	93
		23425	日本美術史演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	94
		23426	日本美術史演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	95
		23428	東洋美術史演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	96
		23430	西洋美術史演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	97
		23432	語学演習B(独語)	4	2～4	通年	演習	102
		23434	語学演習D(伊語)	4	2～4	通年	演習	104
		23435	原典研究A(古文書)	4	2～4	通年	演習	105
		23437	原典研究C(ラテン語)	4	2～4	通年	演習	106
		23438	美学特講	2	2～4	前	講義	107
	選択 専門関連	23320	絵画演習	4	2～3	通年	演習	280
		23321	彫刻演習	4	2～3	通年	演習	283
		23322	デザイン演習	4	2～3	通年	演習	286
デザイン	必修主要	24331	デザイン特別演習	2	3	後	演習	145
		24341	デザインⅢA	7	3	前	実技	133
		24342	デザインⅢB	7	3	後	実技	139
		24391	学外研究	4	3	後	演習	146
		24431	デザインⅣ	15	4	通年	実技	144
工芸	必修主要	25321	染Ⅱ	14	3	通年	実技	173
		25421	染Ⅲ	15	4	通年	実技	182
		25331	織Ⅱ	14	3	通年	実技	190
		25431	織Ⅲ	15	4	通年	実技	202
		25232	繊維科学	2	2	後	講義	206
		25242	漆芸科学	2	2	後	講義	249
		25311	陶芸Ⅱ	14	3	通年	実技	214
		25411	陶芸Ⅲ	15	4	通年	実技	223
		25312	陶芸特別演習	2	3	通年	演習	227
		25341	漆芸Ⅱ	14	3	通年	実技	235
		25441	漆芸Ⅲ	15	4	通年	実技	246
		25322	染織特別演習	2	3	前	演習	208
		25391	古美術研究	4	3	後	演習	166
全専攻共通	選択 専門関連	22132	美術解剖学Ⅰ(骨)	2	1～4	前	講義	75
		22133	美術解剖学Ⅱ(筋)	2	1～4	前	講義	休講
		22202	金属演習	2	2～4	後	演習	292
		23125	芸術心理学	2	1～4	後	講義	293
		23126	芸術学	2	1～4	前	講義	294
		23136	デザイン史	2	1～4	前	講義	295
		23137	工芸史	2	1～4	前	講義	296
		23138	絵画史	2	1～4	後	講義	297
		23141	書道史	2	1～4	前	講義	298
		23142	現代芸術論A	2	1～4	後	講義	299
		23143	現代芸術論B	2	1～4	前	講義	300
		24131	建築史	4	1～4	通年	講義	306
		24153	クラフトデザイン計画	2	2～4	後	講義	310
		24161	プロダクトデザイン論	2	1～4	後	講義	311
		24162	ビジュアルデザイン論	2	1～4	前	講義	312
		24171	視覚伝達論A	2	1～4	前	演習	313
		24172	視覚伝達論B	2	1～4	後	演習	314
		24181	環境造形論	2	1～4	前	講義	315
		24182	色彩論	2	1～4	後	講義	326
		24184	人間工学	2	1～4	後	講義	327

平成31年度 美術工芸学部開設授業科目表一覧(平成27年度以前入学生用)

対象 専攻	科目 区分	科目 コード	授業科目名	単位数	受講 年次	学期	授業 区分	頁
全 専 攻 共 通	選択 専門関連	24251	図学	2	1～4	前	演習	316
		24252	C G基礎	2	2～4	後	演習	317
		25131	陶磁史	2	1～4	前	講義	318
		25132	染織工芸史	2	1～4	前	講義	319
		25151	生活造形論	2	1～4	後	講義	320
		25152	装飾論	2	1～4	後	講義	321
		25162	図法及び製図	4	1～4	通年	演習	328
		25171	漆芸論	2	1～4	後	講義	322
		23145	一般芸術学	2	1～4	後	講義	301
		23146	日本美術史	2	1～4	前	講義	302
		23147	東洋美術史	2	1～4	前	講義	303
		23148	西洋美術史A	2	1～4	前	講義	304
		23149	西洋美術史B	2	1～4	後	講義	305
自由科目		21201	絵画	3	2～4	通年	演習	333
		22201	彫刻	4	2～4	前	演習	333
		24201	デザイン	3	1～4	通年	演習	333
		25201	工芸	4	2～4	通年	演習	333
		21202	写真演習	2	1～4	後	演習	335
		24202	スクリーン印刷演習	2	2～4	後	演習	336

実務経験のある教員による授業科目（実践的教育を行う授業）

対象専攻等	区分		授業科目名	単位数	授業区分	教員名	職	担当形態	実務経験等	掲載頁
学部	選択科目	共通専門 関連科目	ビジュアルデザイン概論 ビジュアルデザイン論	2	講義	笹原浩造	准教授	単独	アートディレクター、化粧品会社宣 伝部勤務（1986～2010年）	257 312
			視覚伝達概論A 視覚伝達論A（印刷）	2	演習	赤嶺雅	教授	単独	グラフィックデザイナー、民間企業 （情報通信機械器具製造業、印刷業） デザイン室勤務（1986～1992年）	258 313
			視覚伝達概論B 視覚伝達論B（映像）	2	演習	仲本賢	教授	単独	映像作家	259 314
			環境造形概論 環境造形論	2	講義	宮里武志	准教授	単独	設計事務所主宰、建築設計事務所等 勤務（1994～2002年）	269 315
			日本美術史	2	講義	小林純子	教授	単独	公立博物館学芸員（1989～1994年）	302
			西洋美術史B	2	講義	土屋誠一	准教授	単独	美術批評家	305
			C G基礎	2	演習	真喜志康一	非常勤講師	単独	デザイン事務所経営	317
絵画専攻	必修科目	主要科目	日本画Ⅳ	15	実技	平山英樹	教授	複数	日本画家	20
						香川亮	准教授		画家	
						関谷理	講師		日本画家	
			油画Ⅳ	15	実技	田中睦治	教授	複数	美術家	39～41
						知花均	教授		版画家	
						高崎賀朗	准教授		画家	
彫刻専攻	必修科目	主要科目	彫刻Ⅳ	15	実技	波多野泉	教授	複数	彫刻家	68
						砂川泰彦	教授		彫刻家	
						河原圭佑	講師		彫刻家	
						長尾恵那	講師		彫刻家	
			彫刻特論Ⅱ	2	講義	波多野泉	教授	オムニバス	彫刻家	70
						砂川泰彦	教授		彫刻家	
						河原圭佑	講師		彫刻家	
芸術学専攻	選択科目	主要科目	芸術学演習Ⅰ	4	演習	土屋誠一	准教授	単独	美術批評家	92
			芸術学演習Ⅱ	4	演習	土屋誠一	准教授	単独	美術批評家	93
			日本美術史演習Ⅰ	4	演習	小林純子	教授	単独	公立博物館学芸員（1989～1994年）	94
			日本美術史演習Ⅱ	4	演習	小林純子	教授	単独	公立博物館学芸員（1989～1994年）	95
			芸術学特講	2	講義	土屋誠一	准教授	単独	美術批評家	108
			日本美術史特講	2	講義	小林純子	教授	単独	公立博物館学芸員（1989～1994年）	110
デザイン専攻	必修科目	主要科目	デザインⅢA	7	実技	笹原浩造	准教授	複数	アートディレクター、化粧品会社宣 伝部勤務（1986～2010年）	133 134
						高田浩樹	准教授	単独	デザイン事務所主宰	133 135
						又吉浩	准教授	単独	アニメーション作家	133 136
						宮里武志	准教授	単独	設計事務所主宰、建築設計事務所等 勤務（1994～2002年）	133 137
						座波嘉克	教授	複数	プロダクトデザイナー	133 138
						（インターンシップ）		複数	インターンシップA・B	133
			デザインⅢB	7	実技	又吉浩	准教授	単独	アニメーション作家	139 140
						高田浩樹	准教授	単独	デザイン事務所主宰	133 141
						仲本賢	教授	複数	映像作家	139 142
						又吉浩	准教授		映像作家	139 142
						赤嶺雅	教授	複数	グラフィックデザイナー、民間企業 （情報通信機械器具製造業、印刷業） デザイン室勤務（1986～1992年）	139 143
						（インターンシップ）		複数	インターンシップC・D	139
工芸専攻	必修科目	主要科目	染Ⅲ	15	実技	渡名喜はるみ	教授	複数	染色家	182～184
						名護朝和	教授		染色家	
			織Ⅲ	15	実技	真栄城興茂	教授	複数	染織家、織工房主宰	202
						花城美弥子	准教授		染織家	205
			陶芸Ⅲ	15	実技	山田聡	教授	複数	陶芸家	223
						島袋克史	講師		陶芸家	
			漆芸Ⅲ	15	実技	糸数政次	教授	複数	漆芸家、県工芸振興センター勤務 （1990～2013年）	246～248
						水上修	教授		漆芸家	
						當眞茂	准教授		漆芸家	

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
23110	素描（芸）	2単位 前期	1	演習	阪田清子(非)

■テーマ 素描の基礎的技法の習得と線描画表現の試み

■授業の概要

素描とは一般的に単色の線描画のことを指し示し、また彫刻・絵画・工芸等あらゆる造形の基礎であると位置付けられている。授業では、前半のモチーフに「石膏像・静物・風景」を用いて、対象物の観察から質感・形体・空間構造を意識した素描の基礎的技法を学ぶ。また、後半では「人体」を用いて、対象物の存在感や動きの美しさを洞察し、様々な画材を用いた線描画表現を試みる。

■到達目標

- ・ 構図、質感、形体を意識した描写力を身につける。
- ・ 対象物の動きや構造を捉える観察力を養う。
- ・ 対象物の存在感・美しさを捉える洞察力を深める。

■授業計画・方法

1. 授業ガイダンス、鉛筆によるグラデーションマップの制作
 2. 課題1：石膏 デッサン「幾何形体」／トーン・形
 3. 課題1：石膏 デッサン「幾何形体」／立体感・質感
 4. 課題1：石膏 デッサン「幾何形体」／奥行・空間 ・講評会
 5. 課題2：静物 細密描写「葉・石」／構成、構図の取り方
 6. 課題2：静物 細密描写「葉・石」／色彩の描き分け
 7. 課題2：静物 細密描写「葉・石」／質感の描き分け ・講評会
 8. 課題3：風景 スケッチ／構図の考察 ・寸評
 9. 課題3：風景 スケッチ／形体の観察 ・寸評
 10. 課題3：風景 スケッチ／色彩の観察 ・寸評
 11. 課題3：風景 スケッチ／空間の観察 ・講評会
 12. 課題4：人体 クロッキー／立ちポーズ ・寸評
 13. 課題4：人体 クロッキー／座りポーズ ・寸評
 14. 課題4：人体 クロッキー／寝ポーズ ・寸評
 15. 課題4：人体 クロッキー／様々な素材で描く（各自で用意） ・講評会
- 定期試験は実施しない。〈課題1～4の提出物を定期試験と同等と見なす。〉

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・ 大学付属図書館に素描集（風景、人体等）や入門書・技法書が多数収蔵されています。普段から各自参照することを薦めます。

■成績評価の方法・基準

□方法 課題1・2（各20%）、課題3・4（各30%）、およびコメントペーパーの提出状況により、総合的に評価する。課題の未提出は、評価に入らないまま最終評価となる。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（資料）等

□教科書 特になし

□テキスト 教員が配布 資料：「目で覚える美術解剖学」PIE

□参考文献 「鉛筆デッサン」宮城音蔵著 アトリエ出版、「素描用具と基礎知識」ジェームズ・ホートン著 美術出版社、「人体解剖と描写法」ルイーズ・ゴードン著 ダヴィッド社 等、付属図書館蔵

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
23112	実技研究	5単位 後期	1	実技	石垣克子（非） 阪田清子（非） 与那覇大智（非） 白井明大（非）

※平成29年度以前入学者のみ登録可

■テーマ 絵画と多様な表現媒体について

■授業の概要

芸術を理論的・歴史的な視点から学問の対象とする芸術学専攻においては、いわゆる実技を目的として扱うのではなく、芸術創作の実際を経験的に学ぶことによって、美学、芸術学および美術史学の理論的営為に利することを目指す。

■到達目標

- ・演習を通して様々な技法（ドローイング・水彩・油彩・インスタレーション・詩作・製本）についての知識と理解・解釈を深める。
- ・制作とディスカッションを通じ、表現方法について多角的に考察する。

■授業計画・方法

- 1) ドローイングと水彩（ガイダンス、写真撮影）
- 2) ドローイング制作
- 3) 水彩
- 4) 作品と創作ノート・エスキース等をあわせて提出し、自己評価を含めて講評会を行う。
- 5) 油彩（ガイダンス、モチーフセッティング）
- 6) デッサン
- 7) 油彩制作
- 8) 作品と創作ノート・エスキース等をあわせて提出し、自己評価を含めて講評会を行う。
- 9) インスタレーション（ガイダンス、リサーチ）
- 10) インスタレーション（プランニング）
- 11) インスタレーション（制作）
- 12) 作品と創作記録ノート等をあわせて提出し、自己評価を含めて講評会を行う。
- 13) 詩の創作ガイダンス）
- 14) 詩の創作・製本
- 15) 作品について自己評価を含めて講評会を行う。

定期試験は実施しない。

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

規定の授業時間以外にも自主的に制作に取り組み、各課題とも講評会までには完成作品を提出できるように努める。
油彩、水彩、アクリル用具の基本的なセットを、各自で準備すること。（キャンバス等は実習費で一括購入する）

■成績評価の方法・基準

- 方法 四人の教員から提出される成績を総合して評価する。各実習の評価方法・基準は該当頁を参照のこと
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（資料）等

- 教科書 各実習の頁を参照のこと。
- テキスト 各実習の頁を参照のこと。
- 参考文献 各実習の頁を参照のこと。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
23114	実技研究（絵画）	3単位 後期	1	実技	石垣克子（非） 与那覇大智（非）

■テーマ 絵画の実技研究について

■授業の概要

芸術を理論的・歴史的な視点から学問の対象とする芸術学専攻においては、いわゆる実技を目的として扱うのではなく、芸術創作の実際を経験的に学ぶことによって、美学、芸術学および美術史学の理論的営為に利することを目指す。

■到達目標

演習を通して様々な技法（ドローイング・水彩・油彩）についての知識と理解・解釈を深める。制作とディスカッションを通じ、表現方法について多角的に考察する。

■授業計画・方法

1. ドローイングと水彩 ガイダンス
2. 写真撮影
3. ドローイング制作1
4. 演習2～7
5. 水彩表現の作品について
6. 撮影
7. 冊子作成
8. 講評会
9. 油彩 ガイダンス
10. モチーフセッティング
11. デッサン
12. キャンバス下塗り
13. 油彩
14. 講評会

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・規定の授業時間以外にも自主的に制作に取り組み、各課題とも講評会までには完成作品を提出できるように努める。
- ・油彩、水彩、アクリル用具の基本的なセットを、各自で準備すること。（キャンバス等は実習費で一括購入する）

■成績評価の方法・基準

- 方法 2人の教員から提出される成績を総合して評価する。各実習の評価方法・基準は該当頁を参照のこと。
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（資料）等

- 教科書 各実習の頁を参照のこと。
- テキスト 各実習の頁を参照のこと。
- 参考文献 各実習の頁を参照のこと。

【実習名】 実技研究 (絵画) 「ドローイングと水彩」

【期 間】 10 月 1 日 (火) ~ 10 月 25 日 (金) (毎週火曜から金曜) 全 15 回

【教 室】 芸術学専攻実技実習室 (美術棟地下)

【担 当】 石垣 克子

【課 題】 足もとの風景から

【授業概要】

(テーマ) 「足もとの風景から」

- ・視点を足もと (地面) に向けて、各自で撮った写真をモチーフに本制作としてドローイング 1 点 水彩画 1 点制作する
- ・本制作とともに演習ドローイングと水彩の ワークショップ
- ・制作過程の資料 (写真、スケッチ、エスキース、考察等) をまとめた冊子形式のレポートを作成

【学習目標】

- ・本テーマをよく理解し各自のプランに沿った技法の探求と表現を目指す。
- ・演習を通して様々な技法について知識と理解を深める。
- ・制作過程におけるエスキースや資料などを適切に整理まとめることで制作自体を複合的に考える機会とする。

【授業計画・方法】

- 第 1 回 ガイダンス 写真をモチーフとしたドローイング絵画について
写真撮影 1 (大学構内) 各自のカメラ、カメラ付き携帯を使用)
- 第 2 回 写真撮影 2 (大学外散策) 各自のカメラ、カメラ付き携帯を使用 パソコンに写真を
取り込み描くモチーフとなる写真を選ぶ。ドローイングの準備 (B3 正方形のパネルに
画用紙を水張りする
- 第 3 回 ドローイング制作 1 第 8 回まで継続制作 演習 1 線描について
各自スケッチブック使用
- 第 4 回 演習 2 フロッタージュ コピー用紙に鉛筆使用
- 第 5 回 演習 3 動線のドローイング コピー用紙使用
- 第 6 回 日本の作家のドローイング作品について
- 第 7 回 演習 4 屋外で 完成作品を撮影 ドローイング制作終了
水彩制作の準備 (B3 正方形パネルにマーメイドドリップル用紙を水張りする
- 第 8 回 演習 5 水彩絵の具とテンペラ絵の具の作成と作画
単色描写 抽象表現と本制作のためのエスキース
- 第 9 回 演習 6 透明水彩の特徴 重なり合う色彩 滲みやぼかし
水彩画制作 1 第 1 4 回まで制作
- 第 10 回 演習 7 モダンテクニックについて
- 第 11 回 ジャクソンポロックとパウルクレーについて
- 第 12 回 水彩表現の作品について
- 第 13 回 水彩画完成作品屋外で撮影 水彩画終了
- 第 14 回 冊子作成 実習で作成したものを A4 サイズに複写したもの綴る)
- 第 15 回 講評 (

【成果物】

ドローイング 1 水彩 1 小冊子 1

【評価の方法・基準】

□方法

作品 70% 平生点 20% 提出物 10 パーセント

□観点・基準

足もとの風景を自分なりの観点で捉えることができたか
制作意図にそった表現方法の理解と工夫

【テキスト・参考文献 (作品) 等】

教科書 : 特になし

本実技演習における過去作品 作品集

【実習名】 実技研究 (絵画)「油彩」

【期 間】 10月29日 (火)～11月29日 (金) (毎週火曜から金曜) 全18回

【教 室】 芸術学専攻実技実習室 (美術棟地下)

【担 当】 与那覇大智

【課 題】 油彩による静物画制作

【授業の概要】

画家の表現行為を追体験する油彩画制作を通じて、西洋絵画の空間認識と表現について学ぶ。

【到達目標】

- ・ 紀元1世紀から19世紀にわたって西洋絵画の主流だった空間表現「平面に疑似的に3次元空間を構築すること」について、以下のことを、実制作や議論を通じて理解することを目標とする。
 1. 西洋絵画の空間表現の構築性・論理性。
 2. 疑似的三次元空間を平面に現出する理論の寛容性と排他性。
 3. 我々の「絵画」についての価値観は少なからず西洋絵画が持つ価値観に影響されているが、我々はそれを意識するまでもない自然なこととして、一般論として理解するが、実はその価値観を支える「疑似的三次元空間の二次元における現出」はヨーロッパにおいて偏執的に徹底されたものであり、その点で極めて特殊であること。

【授業計画・方法】

- ・ 第1回 授業ガイダンス、モチーフのセッティング:授業内容の説明と、静物画のモチーフのセットを共同で行う。
- ・ 第2回 モチーフのセッティング:静物画のモチーフのセッティングの続き。
必要に応じて構図決めの参考にスケッチを行う。
- ・ 第3回 デッサン
- ・ 第4回 キャンパスの下塗り
- ・ 第5回 キャンパスの下塗り (油彩の制作に備えて)
- ・ 第6回 油彩下描き1:鉛筆と木炭
- ・ 第7回 油彩下描き2:油絵具
- ・ 第8回 油彩描き込み1:有彩色の薄塗り
- ・ 第9回 油彩描き込み2:有彩色の厚塗り
- ・ 第10回 油彩描き込み3:(細部の描き込み1)
- ・ 第11回 油彩描き込み4:(細部の描き込み2)
- ・ 第12回 油彩書き込み5:(細部の書き込み3)
- ・ 第13回 油彩描き込み6:(細部と全体を見直す1)
- ・ 第14回 油彩書き込み7:(細部と全体を見直す2)
- ・ 第15回 油彩仕上げ1:グレース1
- ・ 第16回 油彩仕上げ2:グレース2
- ・ 第17回 油彩仕上げ3:スカンプリング
- ・ 第18回 講評

【成果物】

油彩静物画 (F15号)

【評価の方法・基準】

□方法

提出された作品 (80%) と、実習に取り組む態度 (制作への集中の度合い、対話の中での思いの表明が課題内容の理解を反映しているかどうか) (20%) にて評価を行う。

□観点・基準

作品が、上記の学習目標を反映されたものになっているかを基本的に見ていくが、学生が絵画表現について自らのこだわりを持っている場合はその限りではない。制作中の話し合いなどを通じて両者の相違点や共通点を見出す努力がなされれば、それも評価される。

【テキスト・参考文献 (資料) 等】

特になし。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
23115	実技研究（表現）	2単位 後期	1	実技	阪田清子（非） 白井明大（非）

■テーマ 多様な表現媒体について

■授業の概要

芸術を理論的・歴史的な視点から学問の対象とする芸術学専攻においては、いわゆる実技を目的として扱うのではなく、芸術創作の実際を経験的に学ぶことによって、美学、芸術学および美術史学の理論的営為に利することを目指す。

■到達目標

演習を通して様々な技法（インスタレーション・詩作・製本）についての知識と理解・解釈を深める。制作とディスカッションを通じ、表現方法について多角的に考察する。

■授業計画・方法

1. インスタレーション ガイダンス ワーク1
2. ワーク2
3. ワーク3
4. 課題 リサーチ
5. 課題 プランニング
6. 課題 制作
7. 課題 制作
8. 作品設置 講評
9. 文章による創作と本づくり ガイダンス
10. 近現代の詩を読む
11. 詩の創作
12. 詩をセレクトする
13. レイアウト 出力
14. 製本
15. 講評

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

規定の授業時間以外にも自主的に制作に取り組み、各課題とも講評会までには完成作品を提出できるように努める。
油彩、水彩、アクリル用具の基本的なセットを、各自で準備すること。（キャンバス等は実習費で一括購入する）

■成績評価の方法・基準

- 方法 2人の教員から提出される成績を総合して評価する。各実習の評価方法・基準は該当頁を参照のこと。
□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（資料）等

- 教科書 各実習の頁を参照のこと。
□テキスト 各実習の頁を参照のこと。
□参考文献 各実習の頁を参照のこと。

【実習名】 実技研究 (表現) 「インスタレーション」

【期 間】 12 月 3 日 (火) ～ 12 月 20 日 (金) (毎週火曜から金曜) 全 12 回

【教 室】 芸術学専攻実技実習室 (美術棟地下)

【担 当】 阪田清子 (非)

【課 題】 導入①～③、課題：テーマ「光」

【授業概要】

インスタレーションとは、本来は「据え付け」や「設置」という意味だったが、1970 年代以降、表現手法・ジャンルの一つとして確立されるようになった。それは一点一点の作品を「鑑賞」というより、鑑賞者が身を置く空間全体を「体験」する芸術手法である。授業では、受講者が生活をおくる「日常空間」を考察の場・素材探し・作品設置の要素とし、ワーク・課題の実践を通じて現代美術の重要な表現手法であるインスタレーションについて理解を深める。

【学習目標】

- ・ インスタレーションという芸術手法の基礎的知識を理解する。
- ・ 制作とディスカッションを通じ、表現方法について多角的に考察する。
- ・ 表現の解釈を広げ、インスタレーションの可能性を探る。

【授業計画・方法】

- ・ 第 1 回 授業ガイダンス、ワーク 1：関係性に変化をあたえてみる／モノ
- ・ 第 2 回 ワーク 2：関係性に変化をあたえてみる／場所
- ・ 第 3 回 ワーク 3：関係性に変化をあたえてみる／モノと場所
- ・ 第 4 回 課題：リサーチ①／テーマの考察
- ・ 第 5 回 課題：リサーチ②／場所の考察
- ・ 第 6 回 課題：プランニング①／素材と場所
- ・ 第 7 回 課題：プランニング②／イメージの展開
- ・ 第 8 回 課題：制作①／素材収集
- ・ 第 9 回 課題：制作②／表現の追及、中間講評会
- ・ 第 10 回 課題：制作③／配置と展開
- ・ 第 11 回 課題：制作④／完成に向けて
- ・ 第 12 回 課題：完成／作品の設置、講評会及びまとめ

【成果物】

ワーク 1～3、課題、制作記録ノート

【評価の方法・基準】

□ 方法

ワーク 1～3 (30%)、課題 (50%)、および制作記録ノート (20%) により、総合的に評価する。

□ 観点・基準

作品・講評会を通じて課題への理解力。制作記録ノート・制作過程を通じて課題への考察。(制作記録ノートは毎授業後に提出すること。)

【テキスト・参考文献 (作品) 等】

参考作品：学生参考作品

- 【実習名】 実技研究 (表現)「文章による創作と本づくり」
 【期 間】 1月7日(火)～1月17日(金) (毎週火曜から金曜) 全8回
 【教 室】 芸術学専攻実技実習室 (美術棟地下)
 【担 当】 白井明大
 【課 題】 詩の創作と製本

【授業概要】

いくつかの詩を書いて、小詩集をつくります。自分の書いた言葉と向き合う時間と言ってもいいかもしれません。書き上げた詩をもとに装丁案を考え、詩のレイアウトを組み、印刷して (手書きも ok)、製本します。詩を書くということは、他の誰でもない、あなた自身の心と言葉を見つめることです。だからこそ、書かれた詩は大切なものともなります。心と言葉とが結びついていることを感じながら、ゆっくりと、一步一步、詩作の旅に出かけましょう。

【学習目標】

- ・学生時代というのは、ほんのわずかな期間に、大きな変化を遂げるのでできる時間です。それほど吸収力が高く、柔軟で創造的な心を持ち、感受性の豊かな、可能性のカタマリのような状態にあります。
- 決まりごとの何もない自由詩を書くことを通じて、あなたがた一人一人が持っている、それぞれの言葉の可能性に気づいてもらうことが、この実技研究の最も大事なテーマです。
- ・詩を書くだけでなく、装丁から製本までの過程で、言葉が活字となり、紙などの媒体に配置され、綴じて書物となることの意味を肌で感じてください。そうした実地において「言葉とはなにか」「詩、文学、言語芸術とはいかなるものか」「書物を生み出す各プロセスがどのような役割を担っているか」などについて感得することも大切です。
- ・芸術と向き合い、考察を深め、論文を執筆する芸術学科の学生にとって、言語芸術の一である詩作を体験することが、学究的な精神を涵養し、芸術研究のための一助となることを願っています。

【授業計画・方法】

- ・ 第1回 詩とは何かについてのガイダンス。
- ・ 第2回 近～現代詩の名作を読む。実際に詩作を行う。
- ・ 第3回 詩作を通じて、自分の中からどんな言葉が出てくるのかを発見する。
- ・ 第4回 自分の言葉をどの方向に伸ばしていくか吟味しつつ、詩作する。
- ・ 第5回 小詩集に収める詩をセレクトし、台割を作る。小詩集の装丁案を考える。
- ・ 第6回 詩の本文のレイアウトフォーマットを作成する。表紙用のビジュアル素材を用意する。
- ・ 第7回 本文を台割に沿ってレイアウトし、出力する。同様に、表紙を出力する。
- ・ 第8回 表紙と本文を三つ目綴じなどにより製本する。完成した小詩集を読み合い、合評する。

【成果物】

小詩集 (合評会として、自作の詩を紹介・リーディングするなど、おたがいの詩を読んだり聞いたりしながら感想を述べ合う時間を最終日に設けます)

【評価の方法・基準】

- 方法 詩作・小詩集制作 100% 創作した詩、制作した小詩集によって評価をおこなう。
- 観点・基準 詩は、自分でも思いもよらない言葉が生まれてくるものです。
自分の内面とまっすぐに向き合うことを、評価の対象とします。

【テキスト・参考文献 (作品) 等】

教科書：高良勉編『山之口獺詩集』(岩波文庫)、岩波書店、2016 年
 参考文献：美鶯堂『美鶯堂とつくる はじめての手製本 製本屋が教える本のつくりかた』河出書房新社、2016 年
 テキスト：ワークショップを通じて適宜、さまざまな詩集を閲覧・朗読してもら

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
23113	基礎演習	2単位 後期	1	演習	芸術学専攻教員 國吉貴奈（非）

■テーマ 芸術学の基礎を身につける

■授業の概要

美学・芸術学や美術史学を志す学生に対し、芸術を理論的に研究するための基礎学力を習得させる。授業は講義と実践で構成され、実践的な調査や発表資料の作成等も担当教員の指導のもとに行う。

■到達目標

- ・文献検索の技術が身につく、研究テーマに沿った文献を抽出することができる。
- ・芸術学の学術用語や研究の方法を理解し、それを正しく使うことができる。
- ・独自の研究テーマが設定できる。
- ・発表資料を作成し、口頭で自分の意見を発表することができる。
- ・論文執筆の技術が身につく、自分の意見を合理的に論述することができる。

■授業計画・方法

次の授業のスケジュールに従って、担当教員を中心に授業を進めるが、芸術学専攻教員と共同で行う回もある。芸術学の基礎概念や思考方法、文献の見つけ方、論述の技術などを学び、個別のテーマ研究に至る。学期末には研究成果を口頭発表し、レポートを提出してもらう。

No.	授業内容	担当教員
1	オリエンテーション・機材の扱い	小林・國吉
2	芸術学の基礎概念	國吉
3	美学の考え方・原書講読型演習の作法	喜屋武・國吉
4	美術史学の諸問題と方法①・研究テーマの検討①	尾形・國吉・小林
5	美術史学の諸問題と方法②	金・國吉
6	芸術と批評・作品記述と解釈	土屋・國吉
7	作品研究の初歩・研究テーマの検討②	小林・國吉
8	論文執筆の目的、方法、技術	國吉
9	研究倫理について・イメージ資料の取り扱い	國吉
10	口頭発表の準備（1）資料の分析・アイデアまとめ	國吉・小林
11	口頭発表の準備（2）配布資料とプレゼンテーションソフト	國吉・小林
12	口頭発表の準備（3）個別面接相談	國吉・小林
13	口頭発表の準備（4）予行練習1回目	國吉・小林
14	口頭発表の準備（5）予行練習2回目	國吉・小林
15	口頭発表会（一人10分、質疑10分）	専攻全教員・國吉

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・研究テーマを設定するために、関連する書籍に目を通すこと。
- ・研究テーマが設定できたら、授業以外の時間を使って研究を進めること。
- ・日常の芸術体験や芸術に関する思索はとても重要なので、日頃から積極的に芸術と接する機会をつくり、鑑賞することによって鋭敏な感覚を養うこと。
- ・身近なことから構わないので、自分なりの問題意識を持ち、これまで以上に深く芸術について考えること。

■成績評価の方法・基準

□方法 受講態度(50%)、口頭発表、レポート(50%)

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（資料）等

□教科書 特になし

□テキスト 特になし

□参考文献 神林恒道・潮江宏三・島本浣編『芸術学ハンドブック』勁草書房、1989年
辻惟雄・泉武夫編『日本美術史ハンドブック』新書館、2009年
高階秀爾・三浦篤編『西洋美術史ハンドブック』新書館、1997年
小田部胤久『西洋美学史』東京大学出版会、2009年

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
23217	学外研究	4単位 後期	2	演習	芸術学専攻教員

■テーマ 作品研究の実践

■授業の概要

国内の美術館や寺社を見学して、建築、絵画、彫刻、工芸などの優品に直接に接し、日本・東洋および西洋の作品研究を行う

■到達目標

- ・美術作品を理論的・美術史的に理解し鑑賞する力とともに、作品に関する論述の力をつけることを目的とする
- ・事前学習：入念な下調べに基づいて、適切でわかりやすい発表・報告をすることができる
- ・見学学習期間の取り組み：積極的にすすんで見学・鑑賞している／課題とした作品を解説することができる
- ・事後レポート：文献資料に加え、実見に基づく記述も交えて、多角的に作品を論じることができる／形式的に整えられたレポートを書くことができる

■授業計画・方法

1 ガイダンス／見学スケジュール立案、課題の決定	16 第5日目午後	見学学習
2 事前学習会（1）	17 第5日目夕刻	見学学習
3 事前学習会（2）	18 第6日目午前	見学学習
4 第1日目午後 見学学習	19 第6日目午後	見学学習
5 第1日目夕刻 見学学習	20 第6日目夕刻	見学学習
6 第2日目午前 見学学習	21 第7日目午前	見学学習
7 第2日目午後 見学学習	22 第7日目午後	見学学習
8 第2日目夕刻 見学学習	23 第7日目夕刻	見学学習
9 第3日目午前 見学学習	24 第8日目午前	見学学習
10 第3日目午後 見学学習	25 第8日目午後	見学学習
11 第3日目夕刻 見学学習	26 第8日目夕刻	見学学習
12 第4日目午前 見学学習	27 第9日目午前	見学学習
13 第4日目午後 見学学習	28 第9日目午後	見学学習
14 第4日目夕刻 見学学習	29 第9日目夕刻	見学学習
15 第5日目午前 見学学習	30 第10日目午前	見学学習

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・基礎演習を履修済の学生に限る
- ・見学の成果を実のあるものにするため、自身の課題とするもの以外であっても、見学する施設や作品に関して十分に下調べをしておくこと

■成績評価の方法・基準

□方法 事前学習、見学学習期間中の取り組み、事後レポートをもとに、総合的に評価する

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（資料）等

□教科書 人見春雄ほか（編）『図解 文化財の見方』山川出版社、2010年

□テキスト なし

□参考文献 なし

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
23411	卒業論文	5 単位 通年	4	演習	芸術学専攻教員

■テーマ 4年生の学生を対象とした、これまでの学習の集大成である必修科目。

■授業の概要

美学・芸術学、美術史学などのうちから志望する分野を選び、自らテーマを定めて研究論文を執筆する。

■到達目標

- ・自ら定めたテーマについて調査研究を行い、その結果得られた知見を論文形式で学術上の約束事に則って表現し、公正な議論の対象として提示できるようになることを目標とする。
- ・以下の点において評価に値する論文を書き上げる。
学術的意義、内容の独創性、実証性、論理性、当該または関連分野への貢献度

■授業計画・方法

1. テーマの設定
2. 論点の整理
3. 目次（章節）の検討
4. 文献資料の調査
5. 作品の調査
6. 中間発表の準備
7. 中間発表（平成31年7月13日）
8. 発表後の反省、課題の確認
9. 論文執筆（1）序論
10. 論文執筆（2）本論
11. 論文執筆（3）本論
12. 論文執筆（4）結論
13. 参考文献・図表等の作成
14. 全体調整と提出（平成32年1月9日）
15. 口述試験（平成32年1月23日）

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・前年度に卒業論文仮題目・研究計画を提出していること。卒業論文の題目等に関する報告書を平成31年5月10日（金）までに提出すること。論文執筆は担当教員の指導を受けながら、計画的に進めること。論文は所定の書式で提出すること。平成32年2月22日（土）の発表会で発表を行うこと。

■成績評価の方法・基準

- 方法 卒業論文および口述試験を主査・副査からなる複数の教員が総合的に評価する。
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（資料）等

- 教科書 担当教員が適宜指示する。
- テキスト 担当教員が適宜指示する。
- 参考文献 担当教員が適宜指示する。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
23151	絵画（芸）	2単位 前期	1	演習	田中睦治, 非常勤講師

■テーマ 様々な素材と様々な絵画技法（写真技法含む）による絵画制作

■授業概要

前半は、写真技法（フォトグラム）や様々な絵画技法（直接表現・間接表現）による作品制作を行う。後半では、素材と技法の応用表現研究として、前半に制作した作品素材と各自が収集した身近な素材（自身の研究領域を含む）を制作材料とした絵画技法（コラージュ）による課題制作に取り組む。授業を通して、基礎的かつ一般的包括的な絵画表現について学ぶ。

【到達目標】

- ・様々な絵画技法（写真技法含む）を実践体験し、絵画表現について理解を深め作品制作を行うことができる。
- ・素材と技法の応用表現研究となる課題制作について理解し絵画作品として表現することができる。
- ・論理的に口頭での発表や記述を行うことができ、他者とのコミュニケーションを円滑に行うことができる。

■授業計画・方法

1. 授業ガイダンス、写真技法（フォトグラム）の準備、説明
2. 写真技法（フォトグラム）による制作：撮影工程、素材の応用
3. 写真技法（フォトグラム）による制作：現像工程・停止工程・定着工程
4. 写真技法（フォトグラム）による制作：仕上げ、応用表現、完成
5. 様々な絵画技法の準備、説明、制作：①フロタージュ、②パチック
6. 様々な絵画技法の準備、説明、制作：③デカルコマニー、④スパッタリング
7. 様々な絵画技法の準備、説明、制作：⑤マーブリング
8. 様々な絵画技法の準備、説明、制作：⑥モノタイプ
9. 課題「様々な絵画技法及び写真技法による作品と身近な素材の再構成による絵画制作」準備、説明
10. 絵画技法（コラージュ）による課題制作：発想及び構想計画
11. 絵画技法（コラージュ）による課題制作：コンセプトの立案
12. 絵画技法（コラージュ）による課題制作：制作途中作品の中間チェック
13. 絵画技法（コラージュ）による課題制作：素材と技法の応用、展開
14. 絵画技法（コラージュ）による課題制作：仕上げ、完成、コメントペーパー作成
15. ディスカッション会場設営、ディスカッション、成果作品及びコメントペーパー提出、片付け

※定期試験は実施しない。

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・実習時に必要となる身近な素材（自身の研究領域を含む）は各自で収集を行う。
- ・受講に際して実習材料費を徴収します。※内訳は実習期間中に連絡し残額は返金します。

■成績評価の方法・基準

□方法 成果作品（フォトグラム作品、様々な絵画技法による作品ファイル、課題作品）60%、平常点（制作の取り組み）40%
による総合評価。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（資料）等

□テキスト 授業内にプリント「写真技法（フォトグラム）」、「様々な絵画技法」を配布する。

□参考文献 『アートスクールシリーズ ミクストメディア 用語と基礎知識』著者 マイカル・ライト (Michael Wright), 訳者 石関一夫, 美術出版社, 1995年

□参考資料：学生参考作品

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
23152	彫刻(芸)	2単位 前期	1	演習	波多野 泉

※芸術学専攻（平成30年度以降入学生）のみ受講可

■テーマ 彫刻の量塊と構造「頭像」

■授業の概要

人物の頭部を実際のモデルを使って観察し、塑造技法(modeling)により制作を行い、石膏取りの後、石膏直付け(carvingを含む)によって石膏像作品を完成させる。作品制作、彫刻作品鑑賞を通して、基礎的かつ一般的包括的な彫刻表現の概要を学び、“触覚的”な対象の捉え方、表現方法を理解する。

■到達目標

- ・ 彫刻における量塊と構造を理解する。
- ・ 彫刻作品における全体と部分の関係を理解する。
- ・ 彫刻におけるモデリング(modeling)とカービング(carving)の特性を理解する。

■授業計画・方法

1. ガイダンス、デッサン：対象(モデルの頭部)の観察、心棒の構造を考える。
2. デッサン、心棒制作：自然のあり様をフォルム(形態)で捉え、量塊を意識する。
3. デッサン、粘土練り：対象の全体と部分の関係を意識する。
4. 塑造、粘土粗付け：対象を大きなフォルムで捉え、量塊を意識する。
5. 塑造：量塊の構成、連続性によるムーブマン(動勢)を意識する。
6. 塑造：対象の全体と部分の関係を意識する。
7. 塑造：粘土素材の可塑性を活かし細部まで試作を重ね、モデリングの特性を理解する。
8. 塑造、スライド及び参考作品鑑賞：近代以降の日本、西洋の塑造彫刻を中心に鑑賞
9. 塑造：彫刻作品における全体と部分の関係を意識する。
10. 塑造：観察による表現における対象と作品の関係を理解する。
11. 石膏取り(雌型制作)：切金打ち、石膏振りかけ、補強入れ、石膏塗り込み
12. 石膏取り：石膏塗り込み、粘土掻き出し
13. 石膏取り(雄型制作)：離型剤塗布、石膏流し込み、補強(スタッフ貼り込み)
14. 石膏取り：雌型割り出し、石膏直付け(石膏の特性と扱い方を理解する。)
15. 講評、自己評価とディスカッション、作品記録、後片付け

定期試験は実施しない。

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

危険防止のため作業に適した服装で臨むこと。（事前に適宜指示する。）

■成績評価の方法・基準

- 方法 平常点（制作への取組）40%、成果作品（石膏像）60%による総合評価
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。
作品の完成度、独創性は評価する。

■教科書・参考文献（資料）等

- テキスト プリント「石膏取り」
- 参考文献 Marino Manini "MARINO MARINI" Edi-Albra、造形芸術研究会(編)『造形ハンドブックⅡ』造形社
- 参考資料 本学芸術資料館所蔵作品、学生参考作品

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
23153	デザイン (芸)	2単位 前期	1	演習	仲本 賢 赤嶺 雅

■テーマ 芸術学表現を活用してデザインの基礎を学ぶ

■授業の概要

芸術学表現を活用してデザインの基礎を総合的かつ包括的に学習する。様々な撮影方法と表現方法を学び、さらにパーソナルコンピュータを使用して、主にAdobe Photoshop と同社Illustrator の両画像編集ソフトの学習をしながら、モチーフの観察・制作（インプット）から、紙媒体や映像メディアへの出力（アウトプット）までを、一貫して学習する。芸術学専攻の学生として作成した作品を撮影、入力、編集、出力を通して、デザインの過程を学習する。

■到達目標

- ・デザインの役割や平面構成、色彩構成としての基礎を理解することができる。
- ・映像機器（写真機、動画撮影機器）を使用して基本的な視覚デザイン表現ができる。
- ・コンピュータを使用し、印刷などの紙媒体の視覚伝達表現を実践的に活用することができる。

■授業計画・方法

1. 授業ガイダンス。デザインの社会的役割。
2. 平面構成（面と線、構図と空間の構成力）を学び、色彩構成（配色や効果について表現力）を学ぶ。（担当：赤嶺）
3. 映像機器の構造、照明及び周辺機器。（担当：仲本）
4. スタジオ撮影1。立体的な物体の効果的撮影方法。（担当：仲本）
5. スタジオ撮影2。自己作品の個別撮影方法研究。（担当：仲本）
6. デジタル写真現像。RAW データの現像処理。（担当：仲本）
7. デジタル写真現像。写真の修正（合成、変形）。（担当：仲本）
8. コンピュータ機器とOS 解説。基本機能、基本用語について。（担当：赤嶺）
9. Illustrator 基本操作1。印刷サイズについて。図形及び文字打ちなどの操作。（担当：赤嶺）
10. Illustrator 基本操作2。ツール及び配色や効果、各種パレットの操作。（担当：赤嶺）
11. Photoshop 基本操作1。画像の取り込み、画像解像度、画像補正の解説及び操作。（担当：赤嶺）
12. Photoshop 基本操作2。画像加工について、各種パレットの解説及び操作。（担当：赤嶺）
13. ソフト併用操作。レイアウトの設定、画像配置の基本操作。（担当：赤嶺）
14. 出力機器の操作及び課題制作のアウトプット。（担当：赤嶺）
15. 講評及びデザインの役割についてディスカッション。

定期試験は実施しない。

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・準備：デザイン基礎である平面構成、色彩構成の作品鑑賞や写真、コンピュータを理解する。
- ・復習：授業中に行った講義及び実技はその日のうちに整理、復習を行う。
- ・展開：学んだ授業を実践的に作品へと展開し、具体的成果へと結びつける。

■成績評価の方法・基準

□方法 平常点（制作への取組）40%、成果物（プリント作品）60%による総合評価

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（資料）等

□教科書 配布するプリント

□テキスト 特になし

□参考文献 『基礎造形シリーズ 芸術・デザインの平面構成』朝倉直巳著（六耀社）、『基礎造形シリーズ 芸術・デザインの色彩構成』朝倉直巳著（六耀社）等々

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
23154	工芸(芸)	2単位・前期	1	演習	名護 朝和 非常勤講師

■【テーマ】 工芸の素材、技法、工程によるプロダクト制作

■授業概要

この演習は、伝統的な型染表現に取り組み、工芸におけるプロダクト生産や量産性について学び、生活の中にある工芸作品のよさや美しさ、工芸の伝統と文化について理解を深める。

■到達目標

- ・ 工芸における素材と技法・工程、道具や機器等の操作を理解し作品に表現できる。
- ・ 工芸制作を通して、工芸の特性と量産の概念を理解する。
- ・ 地域の伝統工芸の表現と日本の工芸の伝統や文化、アジアの工芸について鑑賞し理解を深める。

■授業計画・方法

1. 課題説明（工芸分野におけるプロダクトについて）
 2. 型染表現の解説
 3. ステンシル技法による型染表現の実践
 4. 図案構想（教員による個別指導）
 5. 図案作成（教員による個別指導）
 6. 型彫り実践（引き彫り）
 7. 型彫り実践（紗張り）
 8. 染色技法における材料や素材、工程について解説
 9. 布素材へ糊置き 地入れ 顔料染色の解説
 10. 染色の実践（前期）
 11. 染色の実践（中期）
 12. 染色の実践（後期）
 13. 定着について解説 蒸し、水元の実践
 14. 工芸作品鑑賞（教員による工芸概説）
 15. 講評会 レポート提出
- 定期試験は実施しない

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・ レポートの提出を行う
- ・ 高価な道具や機器を扱うため、注意を怠らないこと

■成績評価の方法・基準

□方法 提出作品 40%・平常点 30%・講評会発言及びレポート 30%で総合的に評価する。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（資料）等

□教科書 必要に応じて指示する

□テキスト 必要に応じて指示する

□参考文献 型絵染 -伊砂利彦の作品と考へ- 株式会社用美社
工芸の見方・感じかた 東京国立近代美術館工芸課 編 淡交社 ¥2500-

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
23421	美学演習Ⅰ	4 単位 通年	3～4	演習	喜屋武 盛也
23422	美学演習Ⅱ				

※「美学演習Ⅱ」は「美学演習Ⅰ」を受講した者のみ登録可能

■テーマ 分野横断的な概念

■授業の概要

Mieke Bal: Travelling Concepts (2002) を講読・訳出し、討議を行う。

■到達目標

- ・英文テキストの読解・要約および訳出を通じて、美学および文化論の基礎を理解する。
- ・言葉や概念の精密な運用についての習熟を図る。

■授業計画・方法

毎回の担当者・担当範囲を定めて訳読を進めつつ、討議を行う。

1 ガイダンス・イントロダクション	16 Folds, Flames, and Fire 訳読
2 Introduction 訳読	17 Folds, Flames, and Fire 討議
3 Introduction 討議	18 Philosophy of Art History 訳読
4 Departure 訳読	19 Philosophy of Art History 討議
5 Departure 討議	20 Moving 訳読
6 Words and Concepts 訳読	21 Moving 討議
7 Words and Concepts 討議	22 Moving House 訳読
8 Science and Culture 訳読	23 Moving House 討議
9 Science and Culture 討議	24 Flaming 訳読
10 Looking and Language 訳読	25 Flaming 討議
11 Looking and Language 討議	26 Virtuality 訳読
12 Concept and Object 訳読	27 Virtuality 討議
13 Concept and Object 討議	28 Ecstatic Aesthetic 訳読
14 Concepts 訳読	29 Ecstatic Aesthetic 討議
15 Concepts 討議	30 回顧と展望

定期試験は実施しない。

■履修上の留意点 (授業以外の学習方法を含む)

- ・可能な限り正確な訳文を作成するべく努めること。訳文の日本語におかしいところがあったら、99%は誤訳を疑うべきである。
- ・理解を深めるために、文法上の問題や訳読の工夫についてのみならず、内容についても十分に討議を行いたいので、登場する人物や作品について把握しておくのはもちろん、引用されている文献等についても十分に調べてくること。

■成績評価の方法・基準

□方法 平常の授業における取り組みを材料として総合的に判断する。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献 (資料) 等

□教科書 なし

□テキスト Mieke Bal: Travelling Concepts in the Humanities, University of Tront Press, 2002
(初回に配布する)

□参考文献 参考サイト: <http://www.miekebal.org>

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
23423	芸術学演習Ⅰ	4単位 通年	3～4	演習	土屋 誠一

■テーマ 専門的テキスト講読力を身に着ける

■授業の概要

美術を中心に、現代の芸術理論において必読の、基礎的なテキストを購読する。原則的に日本語訳のテキストを扱うが、英文の原典も併読しながら進める。なお、本科目は、担当教員の美術批評家としての実務経験に裏付けられた知識をふんだんに提供するものである。

■到達目標

- ・現代の芸術理論において必読の基礎テキストを読解できるようになること。

■授業計画・方法

各テキストを使う際の基本的なレクチャー以外は、受講者の発表およびディスカッションによって授業を進める。一つのテキストを読むということは、他の複数のテキストについての基礎的な理解を前提とするものである。そのような網目状に絡まったテキストに対峙し、いかに「文章を読み解く作法」を身につけられるかが要求される。取り上げるテキストの著者は、例えば以下を候補とする。

クレメント・グリーンバーグ、ハロルド・ローゼンバーグ、レオ・スタインバーグ、スーザン・ソントグ、ドナルド・ジャッド、マイケル・フリード、ロバート・スミッソン、ロザリンド・クラウス、など。

受講者の関心や積極的提案によっては、文学を除く美術以外の（特に視覚）芸術諸ジャンル（写真、映画、建築 etc.）についてのテキストを取り上げることも考慮する。

なお、下記各回において表記した、授業会で読み進める頁数は、あくまで目安である。

第1回	イントロダクション、講読テキスト決め	第16回	29-30 頁
第2回	第1担当者の担当による読み進め 1-2 頁	第17回	31-32 頁
第3回	同様 3-4 頁	第18回	33-34 頁
第4回	同様 5-6 頁	第19回	35-36 頁
第5回	第2担当者による読み進め 7-8 頁	第20回	37-38 頁
第6回	同様 9-10 頁	第21回	39-40 頁
第7回	同様 11-12 頁	第22回	41-42 頁
第8回	第3担当者による……といった 13-14 頁	第23回	43-44 頁
第9回	ように、授業回数全30回集中 15-16 頁	第24回	45-46 頁
第10回	して、ひたすらテキスト読 17-18 頁	第25回	47-48 頁
第11回	解に注力する 19-20 頁	第26回	49-50 頁
第12回	21-22 頁	第27回	51-52 頁
第13回	23-24 頁	第28回	53-54 頁
第14回	25-26 頁	第29回	55-56 頁
第15回	27-28 頁	第30回	57-58 頁

※定期試験は実施しない。

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

・発表のための予習もさることながら、関連するテキストをいかに多く読むかが肝要です。つまり、課題テキストを読むために必要な文献や書物を探し出し、それらを日常的に読み・考える習慣をつける必要があります。必ずしも、いわゆる「頭の良し悪し」を重要視しません。大切なのは、学習に対する熱意と「気合い」です。

■成績評価の方法・基準

□方法 受講態度（50%）、都度の発表、レジュメ（50%）

□基準 上記に対する熱意や気合いによって判断する。

■教科書・参考文献（資料）等

□教科書 特になし

□テキスト 特になし

□参考文献 谷川渥監修『20世紀の美術と思想』美術出版社（本学図書館に蔵書があるが、芸術を志すものの、この程度の本は、強制はしないが購入してほしいものである）

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
23424	芸術学演習Ⅱ	4単位 通年	3～4	演習	土屋 誠一

※「芸術学演習Ⅰ」を受講した者のみ登録可能

■テーマ 専門的テキスト講読力を身に着ける。

■授業の概要

美術を中心に、現代の芸術理論において必読の、基礎的なテキストを講読する。原則的に日本語訳のテキストを扱うが、英文の原典も併読しながら進める。なお、本科目は、担当教員の美術批評家としての実務経験に裏付けられた知識をふんだんに提供するものである。

■到達目標

- ・現代の芸術理論において必読の基礎テキストを読解できるようになること。

■授業計画・方法

各テキストを使う際の基本的なレクチャー以外は、受講者の発表およびディスカッションによって授業を進める。一つのテキストを読むということは、他の複数のテキストについての基礎的な理解を前提とするものである。そのような網目状に絡まったテキストに対峙し、いかに「文章を読み解く作法」を身につけられるかが要求される。取り上げるテキストの著者は、例えば以下を候補とする。

クレメント・グリーンバーグ、ハロルド・ローゼンバーグ、レオ・スタインバーグ、スーザン・ソントグ、ドナルド・ジャッド、マイケル・フリード、ロバート・スミッソン、ロザリンド・クラウス、など。

受講者の関心や積極的提案によっては、文学を除く美術以外の（特に視覚）芸術諸ジャンル（写真、映画、建築 etc.）についてのテキストを取り上げることも考慮する。

なお、下記各回において表記した、授業会で読み進める頁数は、あくまで目安である。

第1回	イントロダクション、講読テキスト決め	第16回	29-30 頁
第2回	第1担当者の担当による読み進め 1-2 頁	第17回	31-32 頁
第3回	同様 3-4 頁	第18回	33-34 頁
第4回	同様 5-6 頁	第19回	35-36 頁
第5回	第2担当者による読み進め 7-8 頁	第20回	37-38 頁
第6回	同様 9-10 頁	第21回	39-40 頁
第7回	同様 11-12 頁	第22回	41-42 頁
第8回	第3担当者による……といった 13-14 頁	第23回	43-44 頁
第9回	ように、授業回数全30回集中 15-16 頁	第24回	45-46 頁
第10回	して、ひたすらテキスト読 17-18 頁	第25回	47-48 頁
第11回	解に注力する 19-20 頁	第26回	49-50 頁
第12回	21-22 頁	第27回	51-52 頁
第13回	23-24 頁	第28回	53-54 頁
第14回	25-26 頁	第29回	55-56 頁
第15回	27-28 頁	第30回	57-58 頁

※定期試験は実施しない。

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

・発表のための予習もさることながら、関連するテキストをいかに多く読むかが肝要です。つまり、課題テキストを読むために必要な文献や書物を探し出し、それらを日常的に読み・考える習慣をつける必要があります。必ずしも、いわゆる「頭の良し悪し」を重要視しません。大切なのは、学習に対する熱意と「気合い」です。

■成績評価の方法・基準

□方法 受講態度（50%）、都度の発表、レジュメ（50%）

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。上記に対する熱意や気合によって判断する。

■教科書・参考文献（資料）等

□教科書 特になし

□テキスト 特になし

□参考文献 谷川渥監修『20世紀の美術と思想』美術出版社（本学図書館に蔵書があるが、芸術を志すもの、この程度の本は、強制はしないが購入してほしいものである。）

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
23425	日本美術史演習 I	4 単位 通年	3～4	演習	小林 純子

■テーマ 日本美術史研究の演習

■授業の概要

前期は美術史学の歴史と方法、担当教員の学芸員としての実務経験を活かして、美術作品の調査方法、文献探索の方法、日本および琉球・沖縄美術に関する史料読解などを教えます。後期は引き続き文献史料読解をするとともに、受講生は各自が選んだ美術作品について研究発表を行います。

■到達目標

- ・日本および琉球・沖縄美術史の研究に必要な方法・技術を身につける。
- ・各自が研究テーマを設定し、それについての独自の見解を合理的に論述する。
- ・先行研究を正しく参照し、文献調査に基づく実証性を獲得する。
- ・論理的で分かりやすい論述を行う。

■授業計画・方法

- | | |
|----------------------------|-------------------------------|
| 1. オリエンテーション | 16. 琉球美術の文献史料（琉球国由来記・球陽など） |
| 2. 美術史学の歴史：概説 | 17. 琉球美術の文献史料（家譜資料） |
| 3. 美術史学の歴史：様式論 | 18. 史料読解（琉球）：琉球国由来記「事始」画師（前半） |
| 4. 美術史学の歴史：図像解釈学 | 19. 史料読解（琉球）：琉球国由来記「事始」画師（後半） |
| 5. 美術史学の歴史：心理学と美術史 | 20. 史料読解（琉球）：琉球国由来記「事始」陶工 |
| 6. 美術史学の歴史：ジェンダーと美術史 | 21. 史料読解（日本）：平安時代 |
| 7. 日本美術の作品調査 | 22. 史料読解（日本）：桃山時代 |
| 8. 日本美術文献の調査：事典・目録 | 23. 史料読解（日本）：江戸時代 |
| 9. 日本美術文献の調査：インターネットと図書館 | 24. テーマ研究：問題設定 |
| 10. 口頭発表の方法と技術 | 25. テーマ研究：調査 |
| 11. 論文執筆の方法と技術 | 26. テーマ研究：調査結果のまとめ |
| 12. 美術史研究における文献史料読解 | 27. テーマ研究：論点整理 |
| 13. 史料読解（日本）：法隆寺金堂釈迦三尊像光背銘 | 28. テーマ研究：発表準備 |
| 14. 史料読解（日本）：法隆寺金堂薬師如来像光背銘 | 29. テーマ発表 |
| 15. 前期総括 | 30. 後期総括 |

定期試験は実施しない。

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・授業は基本的に受講生による発表をもとに、意見を交換しあい、問題点や考え方を鮮明にしていきながら進めます。
- ・発表準備に十分な時間を取ること。

■成績評価の方法・基準

□方法 平常点（10%）、課題発表（20%）、前学期レポート（30%）、後学期レポート（40%）で総合的に評価します

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価します。

■教科書・参考文献（資料）等

□教科書：神林恒道・潮江宏三・島本浣編『芸術学ハンドブック』勁草・書房（ネット書店等で入手できます）

赤井達郎・清水善三・吉田友之編『資料日本美術史 増補改訂』京都松柏社（学科室から貸与します）

□テキスト：授業中に配布する文献抜き刷り。

□参考文献：授業中に教授する。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
23426	日本美術史演習Ⅱ	4単位 通年	3～4	演習	小林 純子

■テーマ 日本美術史研究の実際

■授業の概要

日本および琉球・沖縄美術の具体的な作品や作家の調査研究を通して、担当教員の学芸員としての実務経験を活かした美術史研究の実際を教えます。

■到達目標

- ・自分の研究の方向性を定め、研究課題を設定する。
- ・美術作品及びの調査方法・調査技術を身につける。
- ・独自の見解を合理的に論述する。
- ・先行研究を正しく参照し、調査に基づく実証性を獲得する。
- ・論理的で分かりやすい論述を行う。

■授業計画・方法

- | | |
|--------------------------|-----------------------|
| 1. オリエンテーション | 16. 中間報告（2）文献と作品の調査結果 |
| 2. 研究課題の設定（1）方向性と範囲 | 17. 史料読解（1）落款 |
| 3. 研究課題の設定（2）方法 | 18. 史料読解（2）画賛 |
| 4. 研究課題の設定（3）作品と作家 | 19. 史料読解（3）作家伝記 |
| 5. 文献の検索について | 20. 史料読解（4）画論 |
| 6. 作品の検索について | 21. 史料読解（5）素材技法論 |
| 7. 中間報告（1）研究課題と方法 | 22. 中間報告（3）論点整理 |
| 8. デジタルアーカイブについて（1）図書館 | 23. 口頭発表の準備 |
| 9. デジタルアーカイブについて（2）美術館 | 24. 発表原稿の作成 |
| 10. オーラル・ヒストリー・アーカイブについて | 25. 口頭発表 |
| 11. 作品調査の方法と注意点 | 26. 小論文執筆の準備 |
| 12. 作品調査（1）計測と撮影 | 27. 小論文の執筆 |
| 13. 作品調査（2）記録 | 28. 小論文の修正 |
| 14. 作品調査（3）記録の整理とデータベース化 | 29. 小論文の完成 |
| 15. 前期総括 | 30. 後期総括 |

定期試験は実施しない。

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・授業は基本的に受講生による発表をもとに、意見を交換しあい、問題点や考え方を鮮明にしていきながら進めます。
- ・発表準備に十分な時間を取ること。

■成績評価の方法・基準

- 方法 平常点（10%）、前学期レポート（20%）、口頭発表（20%）、小論文（50%）で総合的に評価します。
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価します。

■教科書・参考文献（資料）等

- 教科書：特になし。
- テキスト：授業中に配布する文献抜き刷り。
- 参考文献：授業中に教授する。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
23427	東洋美術史演習Ⅰ	4単位 通年	3～4	演習	金 恵信
23428	東洋美術史演習Ⅱ				

※ 「東洋美術史演習Ⅱ」は、「東洋美術史演習Ⅰ」を受講した者のみ登録可

■テーマ 研究資料としての美術関連文献を読み解く方法と力を見につける。

■授業の概要

基本文献の論考および資料の購読

■到達目標

論文執筆と研究に必要な文献資料を的確に理解できるようになる。

■授業計画・方法

基本的内容の講義を入れながら、受講者の発表とディスカッションで授業を進める。

[準備] 毎回共通 文献の該当部分を読み込み、自分の意見を考えておくこと。]

第1回	イントロダクション、講読テキスト決め	第16回	29-30 頁
第2回	第1担当者の担当による読み進め 1-2 頁	第17回	31-32 頁
第3回	同様 3-4 頁	第18回	33-34 頁
第4回	同様 5-6 頁	第19回	35-36 頁
第5回	第2担当者による読み進め 7-8 頁	第20回	37-38 頁
第6回	同様 9-10 頁	第21回	39-40 頁
第7回	同様 11-12 頁	第22回	41-42 頁
第8回	第3担当者による……といった 13-14 頁	第23回	43-44 頁
第9回	ように、授業回数全30回集中 15-16 頁	第24回	45-46 頁
第10回	して、ひたすらテキスト読 17-18 頁	第25回	47-48 頁
第11回	解に注力する 19-20 頁	第26回	49-50 頁
第12回	21-22 頁	第27回	51-52 頁
第13回	23-24 頁	第28回	53-54 頁
第14回	25-26 頁	第29回	55-56 頁
第15回	27-28 頁	第30回	57-58 頁

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・発表準備以外に、関連概説書に目を通してもらいたい。
- ・発表内容については、疑問点と自分の感想を持ち、授業で積極的に発言してもらいたい。

■成績評価の方法・基準

- 方法 都度の発表 60% 平常点 20% レポート 20%
- 観点・基準 学習目標で挙げた点を基準に評価する。

■教科書・参考文献（作品）等

- 教科書 特になし
- テキスト 学生との相談により決定する。
- 参考文献 『美術とジェンダー非対称の視線』 鈴木杜幾子他（編纂） ブリュッケ 1997
『交差する視線 美術とジェンダ2』 鈴木杜幾子、金恵信（編纂） ブリュッケ 2005

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
23429 23430	西洋美術史演習Ⅰ 西洋美術史演習Ⅱ	4単位 通年	3～4	演習	尾形 希和子

※「西洋美術史演習Ⅱ」は「西洋美術史演習Ⅰ」を受講した者のみ登録可

■テーマ 研究資料としての美術関連外国語文献を読み解く力をつける。

■授業の概要

外国語文献を講読する。毎回翻訳の担当者を決め、担当者は授業で講読していく部分を事前に試訳し、翻訳の際に必要な関連資料を各自で用意し、訳文と共にできれば授業の前に配布する。授業の際にはそれらの資料を使って訳文を検証していく。

■到達目標

- ・自身の研究に必要な文献資料を正確に理解できるようになる。
- ・美術研究に必要なテクニカル・タームを理解する。
- ・原典の細かいニュアンスも反映させた翻訳ができるようになる。

■授業計画・方法

第1回	イントロダクション	第16回	第1担当者による読み進め	3-4 頁	
第2回	第1担当者による読み進め	3-4 頁	第17回	第2担当者による読み進め	5-6 頁
第3回	第2担当者による読み進め	5-6 頁	第18回	第3担当者による読み進め	7-8 頁
第4回	第3担当者による読み進め	7-8 頁	第19回	第4担当者による読み進め	9-10 頁
第5回	第4担当者による読み進め	9-10 頁	第20回	以下同様	11-12 頁
第6回	以下同様	11-12 頁	第21回	以下同様	13-14 頁
第7回	以下同様	13-14 頁	第22回	以下同様	15-16 頁
第8回	以下同様	15-16 頁	第23回	以下同様	17-18 頁
第9回	以下同様	17-18 頁	第24回	以下同様	19-20 頁
第10回	以下同様	19-20 頁	第25回	以下同様	21-22 頁
第11回	以下同様	19-20 頁	第26回	以下同様	23-24 頁
第12回	以下同様	23-24 頁	第27回	以下同様	25-26 頁
第13回	以下同様	25-26 頁	第28回	以下同様	27-28 頁
第14回	以下同様	27-28 頁	第29回	以下同様	29-30 頁
第15回	以下同様	29-30 頁	第30回	まとめ	

定期試験は実施しない。

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・自身の担当回だけではなく、それ以外の回における授業へのコミットメントが重要である。
- ・テキストの内容についてのディスカッションに積極的に参加すること。
- ・Ⅱに登録するためにはⅠを履修済みでなければならない。

■成績評価の方法・基準

□方法 担当回の準備（40%）通常の授業での積極性（40%）、訂正、推敲の上、提出された担当部分の訳文（20%）を合算して成績を評価する。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（資料）等

□教科書 指定しない

□テキスト 前期: *The Dictionary of Art*, Grove, 1996（附属図書館、芸術学専攻書庫蔵）から受講者が選んだ項目を訳していく。

後期: Erwin Panofsky, *Meaning in the Visual Art*, 1983（芸術学専攻書庫蔵）

□参考文献 指定しない

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
23442	芸術文化論演習	4単位 通年	3～4	演習	翁長 直樹 (非) 辛 美沙 (非) 島袋 道浩 (非)

■テーマ 芸術文化の具体相を捉える

■授業の概要

様々なかたちで芸術文化に関する仕事に携わってきた三名の担当教員が、それぞれの立場からテーマを設定する、オムニバス形式の授業。テーマに沿ったレクチャーやそこから展開される対話、討議、また研究発表などの課題を通じて、今日の芸術の在り方を複眼的・立体的に捉えるための手掛かりを与える。

■到達目標

芸術活動および芸術研究が多様化するなかで、芸術文化にかかわる立場や視点、問題意識や思考の多様性を認識・理解し、それに基づきながら公正で明晰な言語の運用を意識することができるようになる。

■授業計画・方法

< 翁長 直樹 先生 >

1. ガイダンス・沖縄県立美術館について
2. 最初の沖縄戦後美術の総括展から「沖縄戦後美術の流れ」1995, 96 より
3. 「東松照明」展より、撮られる沖縄について
4. 「沖縄県立博物館・美術館 開館記念展」より自立について。
5. 「美術館1周年記念」展より 移民の美術
6. 前半のまとめと質疑
7. 写真展「比嘉康男」の撮った沖縄
8. 「安谷屋正義」展より、戦後の沖縄とアメリカ
9. 「OKINAWA ART in NEW YORK」展より
10. 後半のまとめと質疑

< 島袋 道浩 先生 >

1. コンセプチュアルアートについて（マルセル・デュシャン、赤瀬川原平の作品などにも触れながら）
2. 食とアート（リクリット・ティラヴァーニヤの作品などにも触れながら）
3. 動物とアート（ファン・ヨン・ピン、カーステン・ホラーの作品などにも触れながら）
4. 音楽とアート（小杉武久、青葉市子とのコラボレーションなどにも触れながら）
5. アーティストのリサーチ、そしてサイトスペシフィックな作品（これまでの旅を振り返りながら）
6. 都会以外でのアートの可能性について（リボン・アート・フェスティバルなどを振り返りながら）
7. 非西洋人のアートについて（デヴィッド・ハモンズの作品などにも触れながら）
8. 一休さんとアート：日本人にとってのコンセプチュアルアートの起源について考えてみる
9. アーティストとキュレーターの関係について（作品制作のプロセスを振り返りながら）
10. プレゼンテーションの実践（自作、もしくは自分の好きなアーティストについてプレゼンしてもらう）

< 辛 美沙 先生 >

1. アートワールドへのイントロダクション
2. 職業としてのアーティスト
3. 作品を売ることに代わる方法
4. プロジェクトを企画してみる
5. ファンドレイジング
6. アートと社会について
7. 国際展とアートフェア
8. アートと都市開発
9. アートと企業
10. アートと経済の関係について

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・（辛）日頃から展覧会、アートプロジェクトに足を運び、関わり、疑問を持っていただきたい。
一方向的に講義を聴くだけではなく、積極的な介入やディスカッションを通じて、考えを言語化する能力を養う。
- ・（翁長）展覧会を見ておく
- ・（翁長）美術館を複数館見ておく
- ・（翁長）参考資料に目を通す

■成績評価の方法・基準

- 方法 （島袋）それぞれの学生のプレゼンテーション、授業中の発言、そしてレポートによる
（辛） 出席、発言、レポート

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（資料）等

□教科書 （辛）「アート・インダストリー：究極のコモディティを求めて」美学出版

□テキスト 特になし

□参考文献

（島袋） 島袋道浩「扉を開ける」リトルモア 2010

（島袋） 安藤英男「一休 逸話でつづる生涯」すすき出版 1985 などの一休和尚に関する書物

（翁長） 翁長直樹 [ほか] 編『沖縄文化の軌跡 1872-2007』（展覧会図録、沖縄県立博物館・美術館）、2007

沖縄県観光文化局文化振興課（編）『沖縄戦後美術の流れ』（「モダニズムの系譜」1995、「固有性へのこだわり」1996）

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
23431	語学演習 A（英語）	4 単位 通年	2～4	演習	小林 正秀（非）

■テーマ 日本も含む世界の美術に関する情報を英文で得て、英語と美術の両方を読み解き味わう喜びを知る。

■授業の概要

人は自分が好きな物/事や面白い／知りたいと思った物/事は、親や先生から言われなくても自から進んで熱中し、調べ、追い続けるものです。

この授業は、特に前期は下の「テキスト」欄に挙げた美術雑誌等の中から、主として世界中の「現在美術」(Contemporary art)を中心に、一人ひとりが「これが好き／面白そう／もう少し知りたい」と思った展覧会の批評や、比較的短めの作品論・作家論・美術論等を自ら選んで推薦し、皆んなで投票して得票数の多かった順に数編を全員で読み合わせ読解して行きます。

後期は、まず初めに改めてテキストのジャンルや種類を検討し直し、引き続き前期と同じようなもので行くのか、少し変更を加えるのかを議論します。下の「授業計画・方法」欄には段階的に専門書籍等も含む長いもの・専門研究書的なものに移行する形にありますが、そうするかどうかも含めて受講生に諮ります。この授業の主体はあくまで受講生であり、特にテキスト選定の主権は受講生にあります。

科目名の通り英語の語学的学習/演習が第一義ですが、扱うテキストの性格/内容上、当然ながら美学・美術史・美術批評に関する重要事項の補足説明が必要な場合は講義で補います。

■到達目標

- ・自分が欲しい美術情報を、英語で探査・検索・入手して読解し、自分の研究に生かし役立てることの面白さや楽しさを知り、それを習慣化する態度と能力を身につける。
- ・英文をモデルに言語の論理的構造を分析的に客体化/対象化し、その構造美を理解して、日本語による思考と論理の構築に役立てる。
- ・美学・美術史・美術批評の分野の英文で頻用される「術語」(Technical terms)を豊富に習得する。
- ・卒業論文等で英語文献から和訳して引用する際に、適切な和訳ができる力を高める。

■授業計画・方法

<前期>

1. 教員・受講生の自己紹介。授業全体について、特にテキストの範囲とその選定の仕方についての説明。

2. 受講生一人ひとりが推薦するテキストを紹介 (presentation) し、全員で投票し（一人3票まで投票可）、次回から読み進める数編の（2回分の授業で読み終わられる展評等の比較的短い）テキストを選定する。

〔準備〕1回目の授業で課せられた宿題（自分が推薦するテキストを探す）をやっておく。

3. 2回目の授業で選定された最初の（得票数第1位の）テキストを全員で読解し始める。

〔準備〕最初のテキストを予め自分で読んで訳し始めておく。

4. 最初のテキストを全員で読解し終える。

〔準備〕最初のテキストを予め自分で読んで訳し終えておく。

5. 2番目の（得票数第2位の）テキストを全員で読解し始める。

〔準備〕2番目のテキストを予め自分で読んで訳し始めておく。

6. 2番目のテキストを全員で読解し終える。

〔準備〕2番目のテキストを予め自分で読んで訳し終えておく。

7. 3番目の（得票数第3位の）テキストを全員で読解し始める。

〔準備〕3番目のテキストを予め自分で読んで訳し始めておく。

8. 3番目のテキストを全員で読解し終える。

〔準備〕3番目のテキストを予め自分で読んで訳し終えておく。

9. 第2回目の授業と同じだが、前よりも少し長めの（3回分の授業を要

する程度の）テキストを、得票数第2位まで二つ選定する。

〔準備〕8回目の授業で課せられた宿題（自分が推薦するテキストを探す）をやっておく。

10. 9回目の授業で選定された第2周期の最初の（得票数第1位の）テキストを全員で読解し始める。

〔準備〕第2周期の最初のテキストを予め自分で読んで訳し始めておく。

11. 第2周期の最初のテキストを全員で読み、読解を進める。

〔準備〕第2周期の最初のテキストを予め自分で読んで訳し進めておく。

12. 第2周期の最初のテキストを全員で読解し終える。

〔準備〕第2周期の最初のテキストを予め自分で読んで訳し終えておく。

13. 第2周期の2番目の（得票数第2位の）テキストを全員で読解し始める。

〔準備〕第2周期の2番目のテキストを予め自分で読んで訳し始めておく。

14. 第2周期の2番目のテキストを全員で読み、読解を進める。

〔準備〕第2周期の2番目のテキストを予め自分で読んで訳し進めておく。

15. 第2周期の2番目のテキストを全員で読解し終える。前期の反省。

（※ 定期試験は実施しない。）

〔準備〕第2周期の2番目のテキストを予め自分で読んで訳し終えておく。

＜後期＞

16. はじめに（前期の反省を受けての後期の方向性について）。前期の9回目の授業と同じだが、更に長めの（4回分の授業を要する程度の）テキストを、得票数第2位まで二つ選定する。

〔準備〕15回目の授業で課せられた宿題（自分が推薦するテキストを探す）を、夏休み中にやっておく。

17. 16回目の授業で選定された第3周期の最初の（得票数第1位の）テキストを全員で読解し始める。

〔準備〕第3周期の最初のテキストを予め自分で読んで訳し始めておく。

18. 第3周期の最初のテキストを全員で読み、読解を進める。

〔準備〕第3周期の最初のテキストを予め自分で読んで訳し進めておく。

19. 第3周期の最初のテキストを全員で読み、読解を進める。

〔準備〕第3周期の最初のテキストを予め自分で読んで訳し進めておく。

20. 第3周期の最初のテキストを全員で読解し終える。

〔準備〕第3周期の最初のテキストを予め自分で読んで訳し終えておく。

21. 第3周期の2番目の（得票数第2位の）テキストを全員で読解し始める。

〔準備〕第3周期の2番目のテキストを予め自分で読んで訳し始めておく。

22. 第3周期の2番目のテキストを全員で読み、読解を進める。

〔準備〕第3周期の2番目のテキストを予め自分で読んで訳し進めておく。

23. 第3周期の2番目のテキストを全員で読み、読解を進める。

〔準備〕第3周期の2番目のテキストを予め自分で読んで訳し進めておく。

24. 第3周期の2番目のテキストを全員で読解し終える。

〔準備〕第3周期の2番目のテキストを予め自分で読んで訳し終えておく。

25. 本演習の最後で最長（5回分の授業を要する程度）のテキストを一つ選ぶ。

〔準備〕24回目の授業で課せられた宿題（自分が推薦するテキストを探す）をやっておく。

26. 最後のテキストを全員で読解し始める。

〔準備〕最後のテキストを予め自分で読んで訳し始めておく。

27. 最後のテキストを全員で読み、読解を進める。

〔準備〕最後のテキストを予め自分で読んで訳し進めておく。

28. 最後のテキストを全員で読み、読解を進める。

〔準備〕最後のテキストを予め自分で読んで訳し進めておく。

29. 最後のテキストを全員で読み、読解を進める。

〔準備〕最後のテキストを予め自分で読んで訳し進めておく。

30. 最後のテキストを全員で読解し終える。前～後期を通してのまとめ。

（※ 定期試験は実施しない。）

〔準備〕最後のテキストを予め自分で読んで訳し終えておく。

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

・外国語の習得は日常不断の接触と実践があってこそ初めて可能となります。上の「授業計画・方法」欄に毎回〔準備〕として記したように、自ら参加して選定したテキストを授業の前に必ず読んで、分からない／知らない単語は辞書を引いて調べ、構文を把握し、自分なりの日本語に訳しておくこと（所謂「予習」）が必要になります。

■成績評価の方法・基準

□方法 所謂「平常点」（100%）で評価します。上の「履修上の留意点」でも記したように、外国語の習得は日常不断の接触と実践が無ければ達成不可能ですので、テキストを授業の前に必ず読み、分からない／知らない単語は辞書を引いて調べ、構文を把握し、自分なりの日本語に訳して（所謂「予習」して＝70%）、授業に出席し積極的に訳者を志願する（30%）、そういう日常不断性・持続継続性・積極性・熱意で評価します。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価します。

■教科書・参考文献（資料）等

□教科書

特に指定しません。

□テキスト

① アメリカの三大美術雑誌 Art Forum／Art in America／Art News の最近号に掲載された展評 “Reviews” 等の記事。

この内、最初の二誌の現物（実際に手に取って読める）は、本学図書館のマガジン・ラック・コーナーに常置されています。当月号が館内閲覧のみで館外に持ち出せないのも、その前の二ヶ月分（計4冊）を小林が借り出し、芸術学専攻学科の図書コーナーに置いておきます。

Art News は現物がありませんが、最新号の主要記事は Web 上で閲覧できます。ちなみに上記二誌の最新号も Web で閲覧できますので、以下に三誌の展評 “Reviews”（Art Forum は “Critics’ Picks”）欄の URL を記しておきます。<http://www.artnews.com/category/reviews/> , <https://www.artinamericamagazine.com/reviews/> , <https://www.artforum.com/picks> 。なお、この Web 上の記事の場合は、パソコンの自動翻訳機能を使えば「スバラシイ」日本語で読め、大要は掴めますが、何分にも機械によるものなので、くれぐれもおツムを破壊されないよう注意して下さい。

② 海外のギャラリー／美術館／アーティスト等のホーム・ページ中の（例えば Press Release 等の）記事（これも上記の雑誌の広告欄などから情報が得られます）や、Net Auction の売り立て作品に関する執筆者署名入りの作品紹介文（例えば <https://www.artnet.com/auctions/> ）等。

③ その他、自分が読んでみたい図書等も含む各自のお薦めのもの、何でも良い。

□参考文献

その都度、提示します。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
23432	語学演習 B (独語)	4 単位 通年	2~4	演習	クラウス・フランケ (非)

■テーマ ドイツ文学

■授業の概要

前期、ドイツの文学のみならず、世界文学にも傑作とみなされている文豪ゲーテの戯曲「ファウスト第Ⅰ部」を、後期、『グリム童話集』から2つの物語を選んで易しく書き直した版で読む。

■到達目標

今まで学習してきた知識を生かしながら更なる語彙や文法を身につけることによってドイツ文解読能力を増やす。授業で取り上げられる文学の作品は19世紀をかけて現在に至るまでドイツだけではなくヨーロッパの芸術家（絵画・音楽等）に靈感を与えただけに、ドイツ文学の影響力が大きいものであることを理解してもらう。今回、使用するテキストは、出版社Huber が工夫して、1～2年間ドイツ語を学んだことのある学生を対象に原作から平易な現代ドイツ語へ書き直したものである。学生にドイツ文学を紹介すると同時に、ドイツ語に親しんもらいたい。

■授業計画・方法

- | | |
|-------------------|---|
| 1. Faust 1 章 | 1. Frau Holle(S.15 Zeile 25) |
| 2. Faust 2 章 | 2. Frau Holle(S.16 Zeile 39) |
| 3. Faust 3 章 | 3. Frau Holle(S.17 Zeile 75) |
| 4. Faust41 章 | 4. Frau Holle(S.16 Zeile 53) |
| 5. Faust 5 章 | 5. Frau Holle(S.19 Zeile 102) |
| 6. Faust 6 章 | 6. Frau Holle(S.21 Zeile 157) |
| 7. Faust 7 章 | 7. Frau Holle(S.23-Schluß) |
| 8. Faust 8 章 | 8. Der Fischer und seine Frau(S.24 Zeile25) |
| 9. Faust 9 章 | 9. Der Fischer und seine Frau(S.25 Zeile51) |
| 10. Faust 10 章 | 10. Der Fischer und seine Frau(S.27 Zeile79) |
| 11. Faust 11 章 | 11. Der Fischer und seine Frau(S.28 Zeile110) |
| 12. Faust 21 章 | 12. Der Fischer und seine Frau(S.29 Zeile125) |
| 13. Faust 13 章 | 13. Der Fischer und seine Frau(S.31Zeile164) |
| 14. Faust 14,15 章 | 14. Der Fischer und seine Frau(S.32 -Schluß) |
| 15. 定期試験は実施しない/発表 | 15. 定期試験は実施しない/発表 |

■履修上の留意点 (授業以外の学習方法を含む)

- ・ドイツ語を2学期以上履修していること。
- ・毎回、必ず予習して、分からない箇所を明確にした上で講義に臨むこと。
- ・出席を重視する。

■成績評価の方法・基準

□方法 積極的授業参加（3割）、テスト（3割）、発表（3割）、任意レポート（1割）を総合的に評価する。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（資料）等

□教科書 特になし

□テキスト 1.Faust『ファウスト第一部』 出版社 Huber ISBN:978-3-19-101673-9

2.Rumpelstilzchen グリム兄弟『ルンペルシュティルツヒェン』出版社

HuberISBN:978-3-19-301673-7 (9783193016737)

□参考文献 特になし

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
23433	語学演習C（仏語）	4単位 通年	2～4	演習	フランク・デルバール（非）

■テーマ フランス語会話とフランス語文の講読

■授業の概要

この授業の目的は初級レベルから中級レベルのフランス語会話に達することです。自己紹介、道案内などのテーマを扱い、必要な文法や語彙を身につけます。

■到達目標

- ・文法の勉強によって簡単な文を作ることができる。
- ・語彙を学び、自分の表現力を増やせる。
- ・会話の勉強と練習によって他者とのコミュニケーションが円滑に行える。

■授業計画・方法

1. 挨拶と礼儀の表現
2. 自己紹介：名前と国籍を言う
3. 自己紹介：職業を言う
4. 自己紹介：年齢を言う
5. 所有の表現
6. 場所や物の位置
7. 形容詞の性と数
8. 家族について言う
9. 規則動詞の現在形
10. 道案内
11. 日付、階数などを言う
12. 動詞の未来形
13. 「したい」、「すべき」、「できる」の表現
14. 前置詞の使い方
15. 定期試験および解説・まとめ

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・授業に出る前には、毎回前回の授業の内容を復習し、予習する。

■成績評価の方法・基準

□方法：定期的に小テストを行う（80％）。さらに期末テストも行う（20％）。

■教科書・参考文献（資料）等

- 教科書：不要（コピーを配る）
- テキスト：なし
- 参考文献：なし

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
23434	語学演習D（伊語）	4単位 通年	2～4	演習	未定

未定

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
23435	原典研究 A (古文書)	4 単位 通年	2~4	演習	麻生 伸一

■テーマ 同時代史料から過去を知る

■授業の概要

歴史学に限らず、過去を考えると重要なことは、過去を生きた人びとの思考や習慣、行動様式を知ることです。そのためには歴史史料を読解して解釈することが必要です。この講義ではくずし字で書かれた古文書に慣れ親しみ、史料を読むための基礎的な方法や知識を学び歴史を考えることをねらいとします。

使用する史料は、首里王府の命令書や通知文、個人の記録などで、輪読しながら講義をすすめます。

■到達目標

- ・ 候文（そろろうぶん・くずし字）を3割程度読解し内容の理解できる。

■授業計画・方法

第1回 ガイダンス	第16回 生子証文 ① - 諸士
第2回 琉球史と古文書	第17回 生子証文 ② - 百姓
第3回 御朱印・御印判 ① - 文字の特徴	第18回 生子証文 ③ - 生子証文の背景
第4回 御朱印・御印判 ② - 変体仮名	第19回 出生関係文書
第5回 御朱印・御印判 ③ - 古文書の読み方	第20回 漂流関係文書 ① - 立願
第6回 命名関係文書 ① - 琉球人の名前	第21回 漂流関係文書 ② - 結願
第7回 命名関係文書 ② - 童名・成人	第22回 犯罪関係文書 ① - 気随意者への処罰
第8回 命名関係文書 ③ - 改名の背景	第23回 犯罪関係文書 ② - 女性の犯罪
第9回 言上写・覚写 ① - 王府組織	第24回 犯罪関係文書 ③ - シヤーマンは犯罪者か？
第10回 言上写・覚写 ② - 王府役人	第25回 犯罪関係文書 ④ - 冊封と犯罪
第11回 言上写・覚写 ③ - 百姓	第26回 廟制関係文書 ① - 昭穆とはなにか？
第12回 言上写・覚写 ④ - 諸士	第27回 廟制関係文書 ② - イエ意識
第13回 言上写・覚写 ⑤ - 「写」とはなにか？	第28回 廟制関係文書 ③ - 系図と女性
第14回 言上写・覚写 ⑥ - 近世日本との関係	第29回 廟制関係文書 ④ - 祖先観念
第15回 中間のまとめ	第30回 講義のまとめ

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

百数十年前に琉球で読まれていた文書というなれば外国語です。はじめから読める人はいません。この授業では一緒に声に出して読んでいき、くずし字に慣れていきます。テキストの予習・復習を行い講義に望んでください。授業への積極的な参加を期待します。

■成績評価の方法・基準

□方法 毎回の予習状況（30%）、講義中の発表内容（70%）

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（資料）等

□教科書

・ 輪読する史料は講義初回に配布します。／児玉幸多編『くずし字用例辞典』（東京堂出版、1993）／辞書は受講者に貸し出します。その他、使用する辞典などは講義初回に紹介します。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
23437	原典研究C（ラテン語）	4単位 通年	2～4	演習	浜崎 盛康（非）

■テーマ 初級ラテン語を学び、今日目にすることのできる平易なラテン語を理解できるようになること。

■授業の概要

『しっかり学ぶ初級ラテン語』をテキストとして用いる。この入門書は、わかりやすい文法解説と原典からの引用を含む豊富なラテン語の練習問題からなるが、最大の特徴は練習問題に丁寧な「ヒント(説明)」と解答がついていることである。それによって、学習者の負担が大きく軽減され、ラテン語の初級を最後まで学ぶことができる。授業ではこのテキストに加えて、今日目にすることのできるラテン語(たとえば、米1ドル札の裏や、美術作品、国章等にみられるラテン語)を資料として用意し、文法の学習に合わせて提示、理解することができるようにする。

■到達目標

- ・初級ラテン語の習得
- ・今日目にすることのできるラテン語を理解することができるようになること。

■授業計画・方法

1. 授業と評価方法についての説明。テキストの「はじめに」
2. 第1章「発音とアクセント」
3. 第2章「名詞と形容詞1」「1 第1変化名詞」
4. 第2章「2 第2変化名詞」、
「3 第1・第2変化形容詞」(1)
5. 第2章「3 第1・第2変化形容詞」(2)
6. 第3章「動詞1」「1 直説法・能動態・現在」
7. 第3章「2 不規則動詞 sum」「3 命令法・能動態」
8. 第4章「名詞と形容詞2」「1 第3変化名詞」
9. 第4章「2 第4変化名詞」「3 第5変化名詞」
「4 第3変化形容詞」
10. 第5章「動詞2」「1 直説法・能動態・未完了過去」、
「2 直説法・能動態・未来」
11. 第5章「3 不規則動詞」
12. 第6章「代名詞1」
「1 人称代名詞、指示代名詞(1)、再帰代名詞」
13. 第6章「2 指示代名詞(2)、強意代名詞、疑問代名詞」
14. 第6章「3 代名詞的形容詞」「4 不定代名詞」
15. 第7章「動詞3」「1 直説法・能動態・完了」
(定期試験は実施しない)
16. 復習及び第7章「動詞3」「2 直説法・能動態・未来完了」
「3 直説法・能動態・過去完了」
17. 第8章「分詞・動名詞・動形容詞」
「1 分詞(現在分詞・完了分詞・目的分詞・未来分詞)」
18. 第8章「2 動名詞」「3 動形容詞」
19. 第9章「動詞4」
「1 直説法・受動態(1)現在、未完了過去、未来」
20. 第9章「2 直接法・受動態(2)完了、未来完了、過去完了」
「3 形式受動態動詞」「4 不定法」
21. 第10章「代名詞2・その他」「1 関係代名詞」
22. 第10章「2 副詞」(1)
23. 第10章「2 副詞」(2)「3 前置詞」
24. 第10章「4 比較」
25. 第10章「5 数詞」
26. 第11章「動詞5」「1 接続法の活用と単文での用法」(1)
27. 第11章「1 接続法の活用と単文での用法」(2)
「2 接続法の用法(1)名詞節、形容詞節での用法」
28. 第11章「3 接続法の複文での用法(2)副詞節での用法」
29. 第12章「様々な構文」「1 非人称構文」「2 絶対的奪格」
30. 第12章「疑問文」、ワークシートによるまとめ
(定期試験は実施しない)

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・「授業計画・方法」に合わせて、テキストの予習・復習を行うこと。

■成績評価の方法・基準

- 方法：授業における理解度と最後のワークシートによるまとめによって評価する。なお、出席も加味する。
- 基準：到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（資料）等

- テキスト：『しっかり学ぶ初級ラテン語』山下太郎、ベレ出版
- 参考文献：授業で適宜指示する。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
23438	美学特講	2単位 前期	2～4	講義	喜屋武 盛也

■テーマ 都市環境の美学

■授業の概要

Jale Erzen & Raffaele Milani (eds.) *Nature and the City. Beauty is Taking on a New Form*. International Yearbook of Aesthetics. Volume 17. Sassari: Edizione Edes 2013 所収の論考を取り上げて紹介し、討議を行う。

■到達目標

- ・現代の美学が試みている諸々の議論の一端を理解し、それについて説明したり問いを立てたりすることができる。
- ・芸術や文化についての英語論文を読んである程度の概略を理解することができる。

■授業計画・方法

原則として各論文について概略を要約し解説を加え、さらに発展的な議論を行う。基本的に講義形式でおこなうが、ディスカッションを多く取り入れたい。

1. ガイダンス／イントロダクション
2. 第1論文 要約と解説
3. 第1論文 発展と討議
4. 第2論文 要約と解説
5. 第2論文 発展と討議
6. 第3論文 要約と解説
7. 第3論文 発展と討議
8. 第4論文 要約と解説
9. 第4論文 発展と討議
10. 第5論文 要約と解説
11. 第5論文 発展と討議
12. 第6論文 要約と解説
13. 第6論文 発展と討議
14. 総論：都市環境の美学
15. 回顧と展望／定期試験

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・ガイダンスまでに、目次のタイトルを訳しておくこと
- ・各回、対象となる論文に事前に目を通して、言及されているテキストや作品についても調べておくこと

■成績評価の方法・基準

- 方法 レポート（50%）、提出されたレポートをもとにした口述試験（50%）
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（資料）等

□教科書 なし

□テキスト

Jale Erzen & Raffaele Milani (eds.) *Nature and the City. Beauty is Taking on a New Form*. International Yearbook of Aesthetics. Volume 17. Sassari: Edizione Edes 2013

<https://www.iaaesthetics.org/publications/yearbooks>

[各自ダウンロードしておくこと (Download attachments の欄にPDF ファイルへのリンクあり)]

□参考文献

西村清和（編著）『日常性の環境美学』勁草書房（701.1/N84）

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
23439	芸術学特講	2 単位 後期	2～4	講義	土屋 誠一

■テーマ 戦後アメリカ美術を中心としたその歴史と理論を論ずる。

■授業の概要

今日「美術」と一言で言っても、それは一枚岩のものではなく、様々な隣接ジャンル（写真、映画、建築、サブカルチャー etc.）との関係や、現代の思想や政治との関わりを抜きにしては、それを理解したことにならない。担当教員の美術批評家としての実務経験を活かした講義を通じて受講者が研究スキルを実践的に身につけ、戦後アメリカ美術の理解のみならず、「現代」の諸問題を主体的に把握することを目的とする。

■到達目標

- ・戦後アメリカ美術についての歴史と理論を理解する。

■授業計画・方法

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 抽象表現主義（概略）
- 第3回 抽象表現主義（ポロックを中心に）
- 第4回 抽象表現主義（ニューマン、ロスコを中心に）
- 第5回 ネオ・ダダ
- 第6回 ポップ・アート（概略）
- 第7回 ポップ・アート（ウォーホルを中心に）
- 第8回 ポップ・アート（リキテンスタインを中心に）
- 第9回 ミニマル・アート（概略）
- 第10回 ミニマル・アート（ジャッドを中心に）
- 第11回 ミニマル・アート（ロバート・モリスなど）
- 第12回 ポスト・ミニマル
- 第13回 ランド・アート、アースワーク
- 第14回 その後の流れ
- 第15回 総括

※定期試験は実施しない。

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

・ヴィジュアル資料を多く用いて進めていくが、ただ受動的に漫然と話を聞くだけならば、受講しても無意味である。現代を考えるために必要な話題を、講義中に様々なかたちで提示していくので、そこから各自の関心に応じて、主体的に問題意識を汲み取って欲しい。授業内での積極的な発言や質問が望まれる。

■成績評価の方法・基準

□方法 受講態度（100%）

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。予習復習含め、授業内容の理解度で成績を判定するので、受講態度で判断する。

■教科書・参考文献（資料）等

□教科書 特になし

□テキスト 特になし

□参考文献 暮沢剛巳編『現代美術を知るクリティカル・ワーズ』フィルムアート社（芸術を志すもの、この程度の本は、強制はしないが購入してほしいものである。）

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
23440	東洋美術史特講	2単位 前期	2～4	講義	金 恵信

■テーマ 近現代期韓国の美術

■授業の概要

近現代期韓国の20世紀は、1910年からの植民地期、韓国戦争、南北分断、軍事独裁、民主化運動、情報化と文化の国家政策などが続く時代だった。授業ではこういった時代状況を踏まえ、美術を中心とする視覚イメージをとおして、韓国の近現代を表層文化の側面から考える。

■到達目標

- ・アジアの隣国である韓国近現代の美術および視覚表象のイメージ、歴史と社会背景の視座で視る。
- ・美術作品を共同体と地域の心像と心境を語る文化研究の可能性の観点で理解できる眼目を備える。

■授業計画・方法

1. ガイダンス。授業全体についての説明 韓国の
2. 韓国前近代美術展示：国立中央博物館と韓国の近現代史
3. 東アジアにおける「近代」と「美術」
4. 東アジアの官設展覧会—東京・京城（ソウル）・台北・長春
5. 朝鮮美術展覧会① ローカルカラーの表象
6. 朝鮮美術展覧会② 妓生の表象
7. 異文化支配に視覚表象と歴史の記憶—朝鮮総督府庁舎
8. 歴史と社会をみつめる美術：民衆美術
9. 社会と歴史を描く：イ・ブルの韓国近現代史ルーム
10. 移住の表象とジェンダー：グローバリズム・アート・ディアスポラ
11. 「家」を語る美術 ①：家の息遣い展
12. 「家」を語る美術 ②：ソン・ヒョンスクの「家と村」
13. 「家」を語る美術 ③：スワードーホの「家と門」
14. 「王朝の空間」と現代美術：徳壽宮プロジェクト展
15. 授業のまとめ 定期試験は実施しない

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・前もって配付する資料を熟読し、示される作品に参考文献で探して一度見ておく。
- ・美術作品をもって、地域の歴史と文化を考える視点を心がける。

■成績評価の方法・基準

□方法 レポート70%・平常点20%・コメントペーパー10%で総合的に評価する。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（資料）等

□教科書 担当教員作成の授業内容とイメージの資料プリント

□テキスト 担当教員作成の授業内容とイメージの資料プリント

□参考文献

金恵信著『韓国近代美術研究—植民地期「朝鮮美術展覧会」にみる異文化支配と文化表象』ブリュッケ、2005年

鈴木 杜幾子・馬淵明子・池田忍・金恵信編『交差する視線：美術とジェンダー2』ブリュッケ、2005

李静和編『残傷の音「アジア・政治・アート」の未来へ』岩波書店、2009

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
23228	日本美術史特講	2単位 後期	2～4	講義	小林 純子

■テーマ 日本美術と沖縄美術の近現代史

■授業の概要

日本と沖縄の近現代美術史における諸問題を論ずることによって、担当教員の学芸員としての実務経験を活かして、二つの地域の美術の類似点や相違点を明らかにし、両者が交差した歴史を講じます。

■到達目標

- ・日本または沖縄の美術史に独自の見解を持ち、それを合理的に論述する。
- ・先行研究を正しく参照し、文献調査に基づく実証性を獲得する。
- ・論理的で分かりやすい論述を行う。

■授業計画・方法

1. オリエンテーション：日本と琉球・沖縄の歴史
2. 近世絵画と写実
3. 油絵の輸入
4. 日本画の成立
5. 琉球絵画の終焉
6. 日本洋画の進展
7. 来沖画家と表象の沖縄
8. 工芸の近代化
9. 西洋モダニズムの受容 (1) 日本
10. 西洋モダニズムの受容 (2) 沖縄
11. 民芸協会と沖縄
12. 戦争と美術
13. 工芸の復興
14. 戦後の美術
15. 現代の美術

定期試験は実施しない。

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・関係文献を読んできてもらうので、予習に十分な時間を取ること。
- ・議論についてこられるよう、日常的に日本および沖縄の美術工芸を鑑賞しておくこと。

■成績評価の方法・基準

□方法 平常点（20%）、学期末レポート（80%）で総合的に評価します。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価します。

■教科書・参考文献（資料）等

□教科書：特になし。

□テキスト：講義中に配布する文献抜き刷り、スライドリスト、年表等のプリント。

□参考文献：北澤憲昭・森仁史・佐藤道信編『美術の日本近現代史—制度 言説 造型』東京美術、2014 年（芸術学専攻、大学附属図書館が所蔵している）

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
23441	西洋美術史特講	2 単位 後期	2～4	講義	尾形 希和子

■テーマ 西洋のイメージ世界

■授業の概要

中世を中心に古代から 17 世紀までの西洋美術の様々な図像について、東洋や日本の美術との比較を交えながら学ぶ。

■到達目標

- ・バロック時代までの西洋美術の諸相を学ぶ。
- ・図像解釈学に親しむ。

■授業計画・方法

1. イン트로ダクション
 2. 古代からキリスト教世界へ (1)
 3. 古代からキリスト教世界へ (2)
 4. 初期中世美術
 5. 中世美術 ロマネスク美術
 6. 中世美術 ゴシック美術
 7. プロトルネサンス美術
 8. 初期ルネサンス美術
 9. 盛期ルネサンス美術
 10. マニエリスム美術
 11. バロック美術
 12. 静物画・風景画
 13. 肖像画
 14. 西洋中世における「他者」の表象
 15. 受講生による発表
- 定期試験は実施しない。

■履修上の留意点 (授業以外の学習方法を含む)

- ・毎回ディスカッションの時間を設ける。受講生の積極的な参加が望まれる。
- ・第 15 回目に授業のテーマに関連して受講生による発表を行う。
- ・受講生は発表を基にしてレポートを提出する。

■成績評価の方法・基準

- ☐方法 発表 (30%) レポート (40%) 毎回の授業における授業態度・積極性 (30%) を総合する。
- ☐基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献 (資料) 等

- ☐教科書 特に指定しない。 ☐テキスト 特に指定しない。
- ☐参考文献 尾形希和子『教会の怪物たち』講談社、2013 年 (附属図書館、芸術学専攻図書室所蔵)
 武田雅哉編『ゆれるおっぱい ふくらむおっぱい』岩波書店、2018 年 (附属図書館、芸術学専攻図書室所蔵)
 徳田和夫編著『東の妖怪 西のモンスター』勉誠出版、2018 年 (附属図書館、芸術学専攻図書室所蔵)
 他は授業の中で紹介する。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
23227	比較芸術学特講	2 単位 後期 集中	2～4	講義	橋本 一径（非）

■テーマ 「写真」という西洋のアクシデント——イメージ人類学的観点から見直す写真史

■授業の概要

デジタル写真が全盛となった現代においては、たとえば報道写真の修正が発覚してスキャンダルになるなど、写真への信頼は揺らぎつつあるようにも見える。その一方で誰もが携帯で写真や動画を手軽に撮影し、あらゆる場所に監視カメラが張り巡らされた現代は、かつてないほど写真イメージが氾濫する時代でもある。19 世紀に西洋で発明され、広く世界に定着するに至った写真技術の歴史が、曲がり角を迎えていることは間違いない。本講義は、イメージ人類学的な観点から、西洋におけるイメージの歴史の中に写真を位置づけなおすことを試みる。この観点によれば、写真とは、「ミメシス」すなわち類似物を生み出すことを理想としてきた西洋のイメージ文化が、間違って発明してしまった欠陥品であり、言わば事故物件である。人々の関心が写真よりも動画に移りつつあるかにもみえる現在、写真という「失敗作」は、忘れられる運命にあるのだろうか？ 本講義は、写真という絶滅危惧種にイメージ人類学的な観点を向け直すことで、そこにミメシス文化に代わる新たなイメージ文化の萌芽を読み解くことを目指す。

■到達目標

- ・ 19 世紀における発明から現代にまで至る写真の歴史の流れを理解し、自分で説明できるようになる。
- ・ なぜ写真が西洋のイメージ文化における「事故」であったのか、自分で説明できるようになる。

■授業計画・方法

- 第1回 イントロダクション（写真は「見たまま」か？）
 第2回 心霊写真の射程
 第3回 三脚写真論
 第4回 原寸大写真論
 第5回 稲妻と写真——科学写真論
 第6回 火災写真論
 第7回 20 世紀写真論の展開
 第8回 ジョルジュ・ディディ＝ユベルマンの「型どり」論（1）
 第9回 ジョルジュ・ディディ＝ユベルマンの「型どり」論（2）
 第10回 ハンス・ベルティンクのイメージ人類学と写真（1）
 第11回 ハンス・ベルティンクのイメージ人類学と写真（2）
 第12回 写真と著作権——「写真家」とは誰か
 第13回 写真と修整
 第14回 定点観測写真論
 第15回解説・まとめ（写真の未来について）および定期試験

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・ 授業で紹介された文献を自ら積極的に読みこなし、定期試験の準備とすること。

■成績評価の方法・基準

□方法 平常点（30%）、コメントペーパー（20%）、定期試験（50%）。

□基準 平常点は授業中の議論への積極的な参加、コメントペーパーでは授業の基本的な理解度、定期試験は授業の内容を踏まえつつ自分なりの解釈を展開できているかどうかを、それぞれ評価の規準とする。また到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（資料）等

教科書 特に指定しない

テキスト 特に指定しない

参考文献 ジョルジュ・ディディ＝ユベルマン『イメージ、それでもなお』、橋本一径訳、平凡社、2006 年
 橋本一径『指紋論』、青土社、2010 年
 ハンス・ベルティンク『イメージ人類学』、仲間裕子訳、平凡社、2014 年